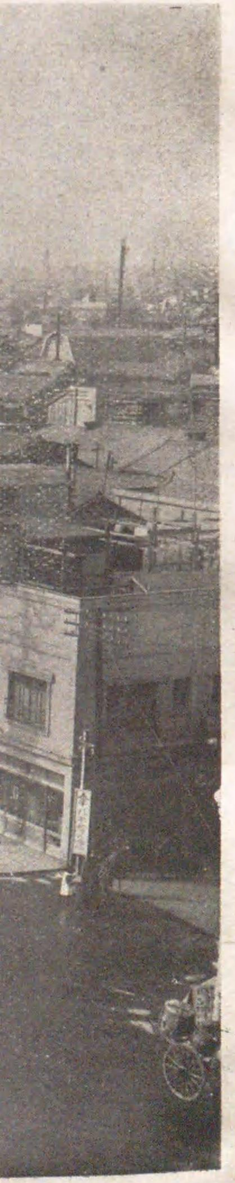


駒形通りより淺草雷門へ

Komagata Street to Kaminarimon.

「君はいま駒形あたりほとゝぎす」と江戸情調の濃かな、藏前から駒形のあたり。これもコンクリートで固まつて、モダン氣分が横溢して淺草雷門へと通じてゐる。

駒形橋附近

Komagata Street, viewed from Komagata bridge.

駒形橋附近から撮影せる駒形通り。

Komagata Street to
mon.

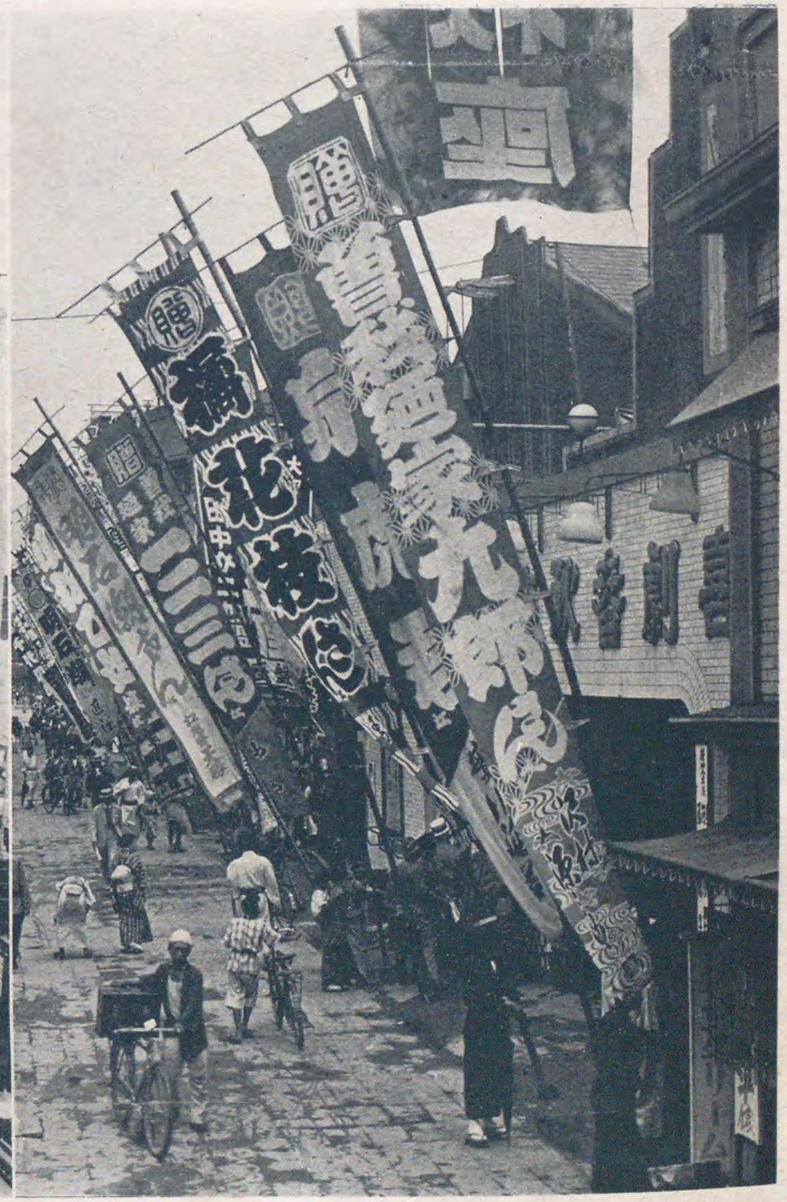
。

浅　草　觀　音　堂

The Kannon Temple of Asakusa, viewed from the shopquarters.

一寸八分の金の觀世音像が十八間四面の御堂に在ます淺草の觀音堂、御堂は元禄あ
功德あらたかに災禍を免れて人々に感涙をもよほさせた。寫眞は仲見世から見た觀音

淺草六區の人の波



A crowded mass in the cinema zone of Asakusa.

淺草の映畫館も近代的建築美々しく竣成して新東京の歡樂境たる面目を發揮して來た。

The Kannon Temple of A
kusa, viewed from the s
quarters.

淺草の食傷新道

The eating-shop-quarters of Asakusa.

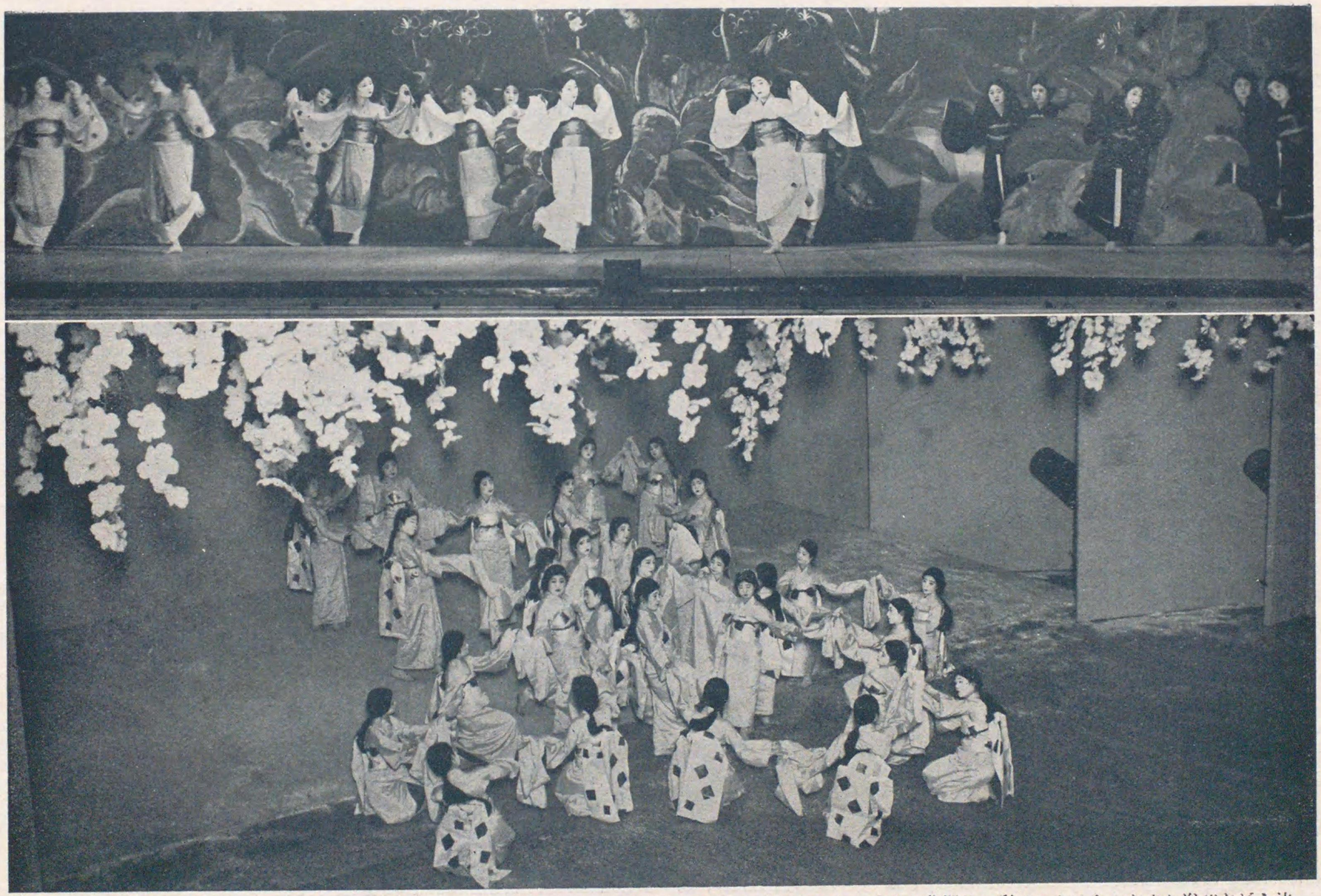
觀音樣の御利益と、劇と劍劇と映畫と、それから享樂になくてならぬ口腹の美、こゝらあたりは淺草の食傷新道、安くてうまいもの揃ひである。

淺草六區の人の波

A thick crowd in the lotus-land of Asakusa.

東京の歡樂の巷淺草第六區、四六時中の人の波、劇に映畫にレヴユーに、それから酒に肴に、東京の歡樂はこゝに集つてゐる。

これが新時代のダンスだといふ淺草松竹座のレヴユー



A review stage of the Shochikuza Theatre.

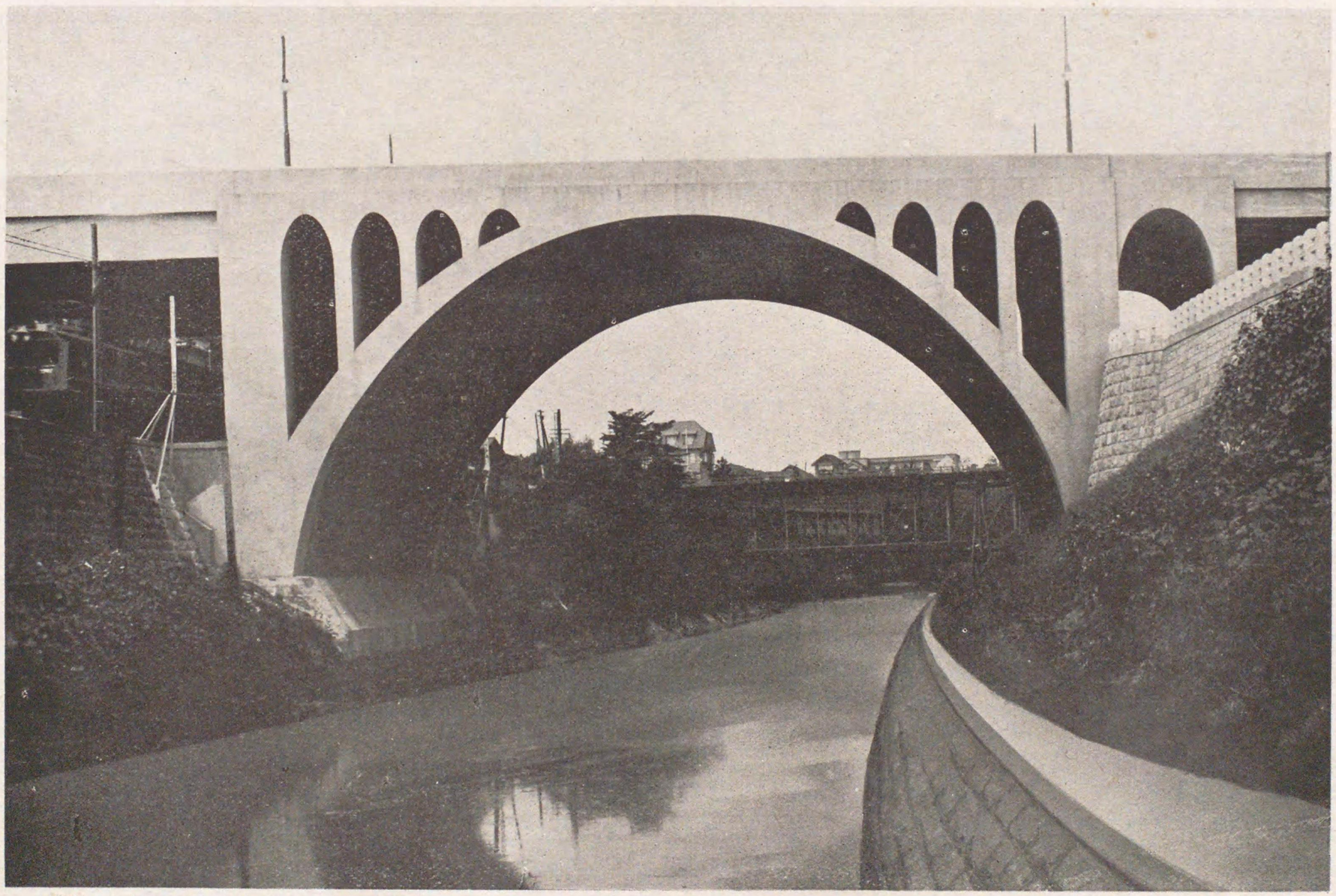
レヴユーと云ふ言葉がいつともなしに云はれる様になつた。映畫の幕間等に彩りのある色々な光を浴びながら流行のジヤズが行進曲につれて、花も恥ぢらふ綺麗な娘さん達が手をかゝげ足をあげて、而も半裸體で踊り狂ふ……パリーから輸入したと云ふ新時代のダンス、今では東京一の名物になつた。寫眞は淺草松竹座のレヴユー。

歌舞伎座の舞臺面

Kabuki, the Japanese classic play, at the Kabukiza Theatre.

歌舞伎劇、東京の近代人にとつてはもう今では只單なる懐古的存在でしかない。何々劇、某々劇團等種々の新興劇團に押されて、早くも歌舞伎劇滅亡を唱へられてゐるが、我國古來からの演劇だ、さうさう容易すく壞れてしまふ様な事もあるまい。寫眞は歌舞伎座の舞臺面。

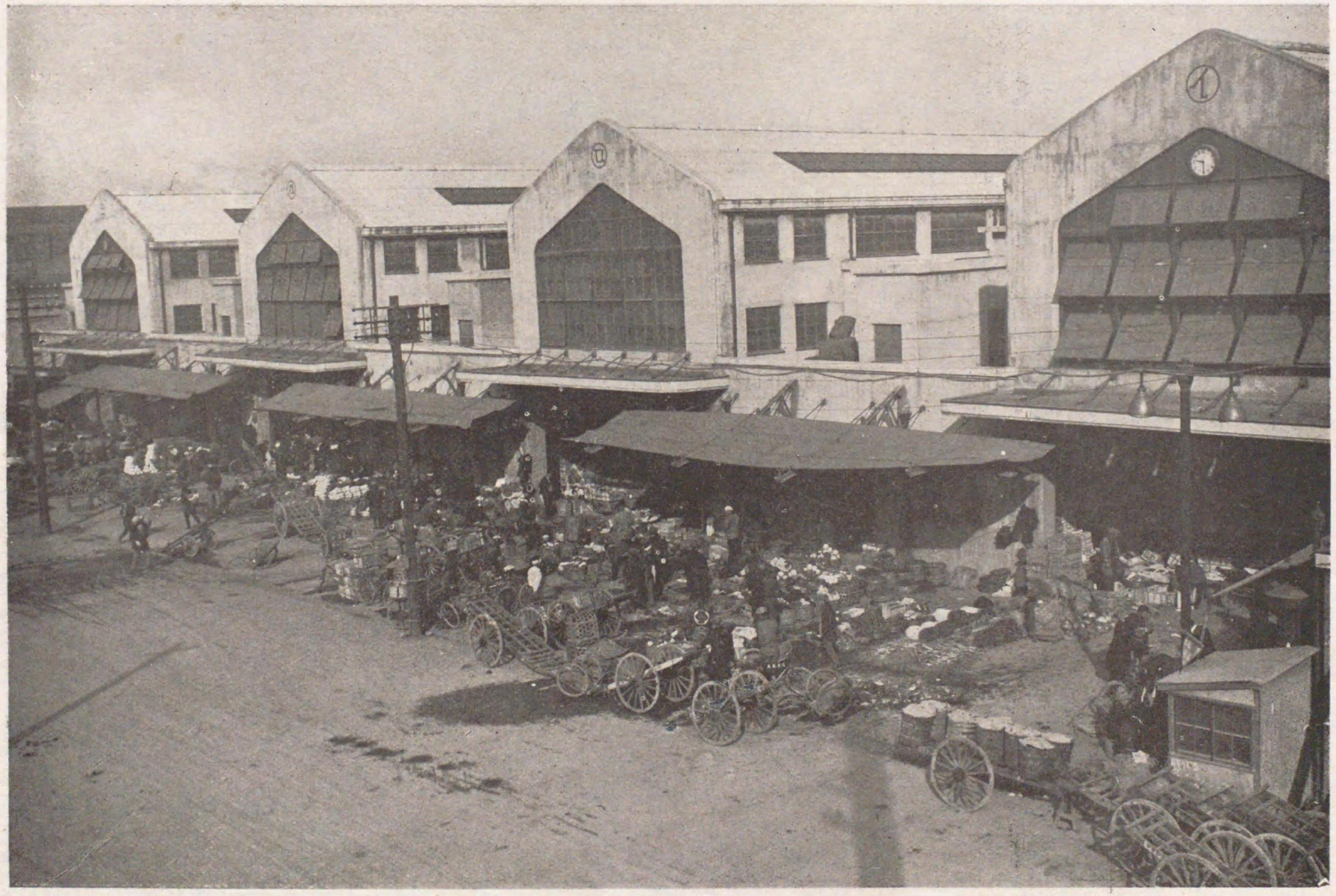
お茶の水に架る聖橋



Hijiri bridge over the Ocha-no-mizu stream.

江戸時代から湯島は孔子聖堂で聞えたところ、この前を流れるお茶の水に、名も聖橋とゆかしい昔を偲ぶ橋が架けられたが、形は頗るモダンな橋である。

新東京の青物集散地



The Vegetable Market by Akibahara Station of the Elevated railway.

神田多町の青物市場は江戸ッ兒の本場とまで謳はれたが、時代は進んで神田秋葉原驛の高架線下に移轉を餘儀なくした。鐵筋コンクリートの建物もいかめしく、且つはモダンに新東京の青果集散地として活動振りだけは江戸前に勇ましい。

九段より神田方面を望む

Kanda directians, looked down from the hill-top of Kudan.

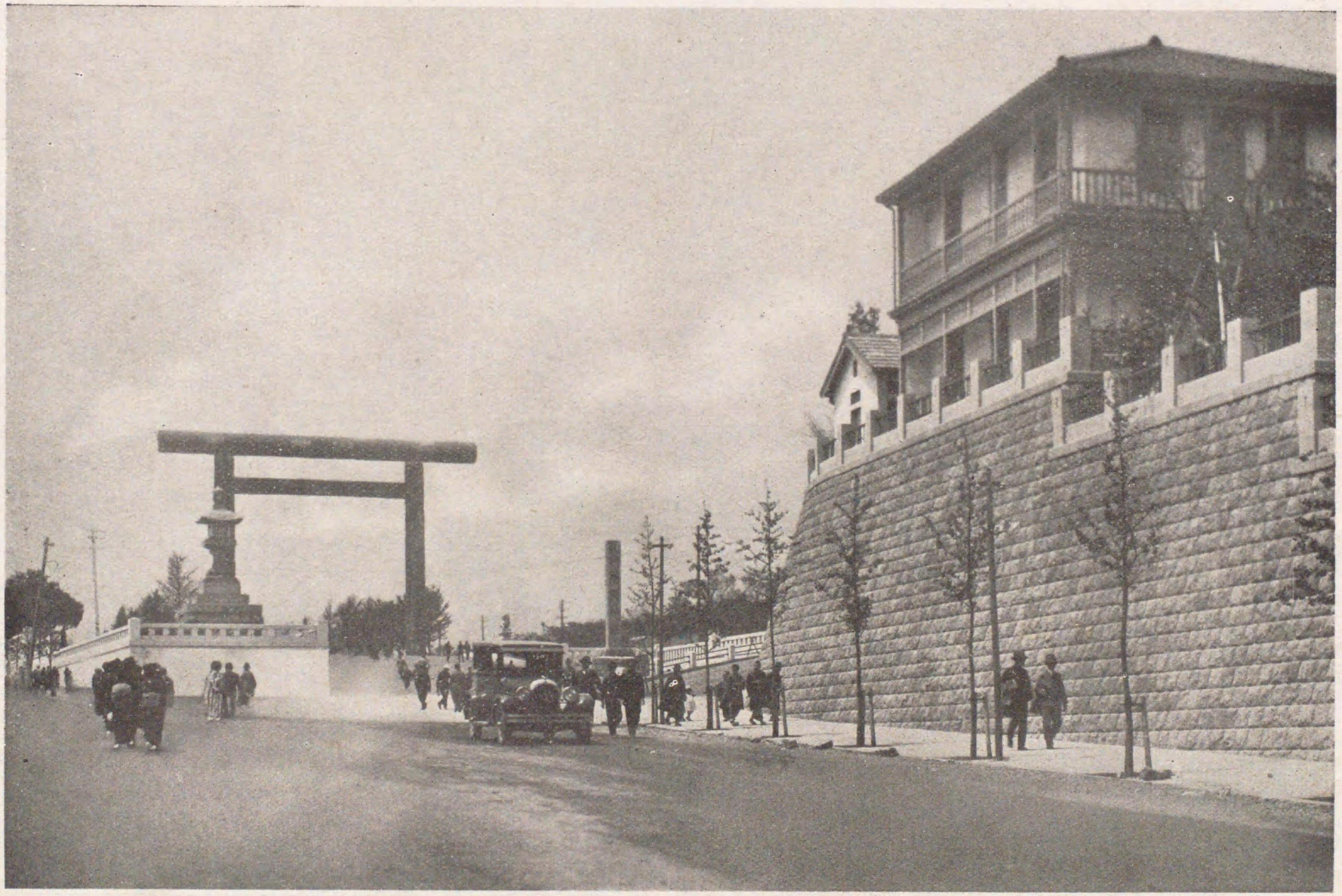
九段坂から神田神保町通を望んだ光景で、この通りの兩側が有名な書店街である。左方の裏側には諸種の學校があり、駿河臺のニコライは高く天空に聳えてゐる。

コンクリートの舗道も近代化された九段坂

The Kudan slope repaired in pavement and a view of Kanda.

九段は愛宕山等と共に江戸時代から市中の見晴し臺とされてゐた所、北齋、廣重等の風景畫家にも「東都名所」の一つとして畫かれた地である。それも今では緩勾配の舗道もコンクリートに近代化されたが、遙か駿河臺ニコライ堂の方を眺めた風景は近代都市の眺望を代表したものである。靖國神社の祭禮にも昔ながらの賑ひをみせてゐる。

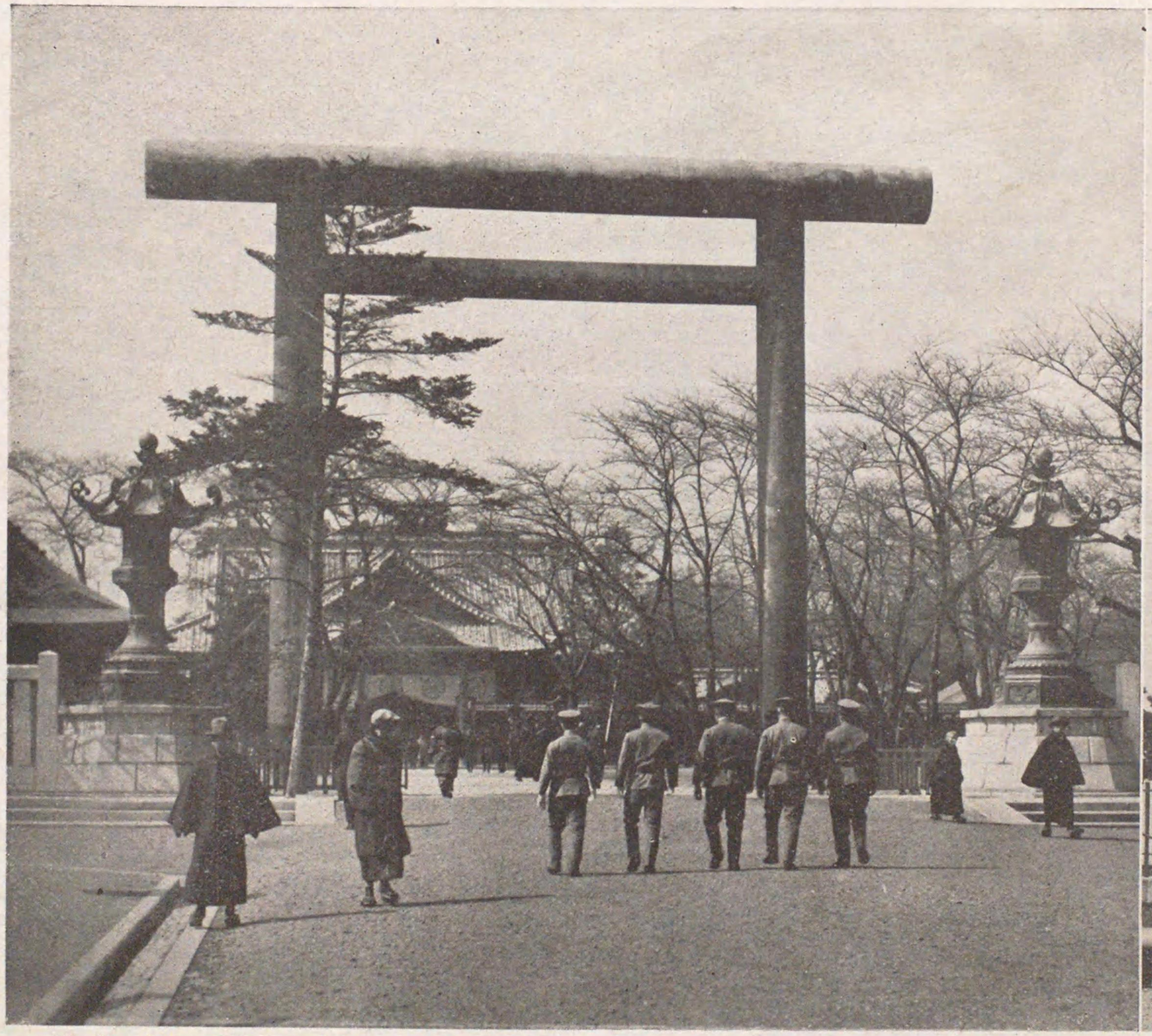
削られた九段坂

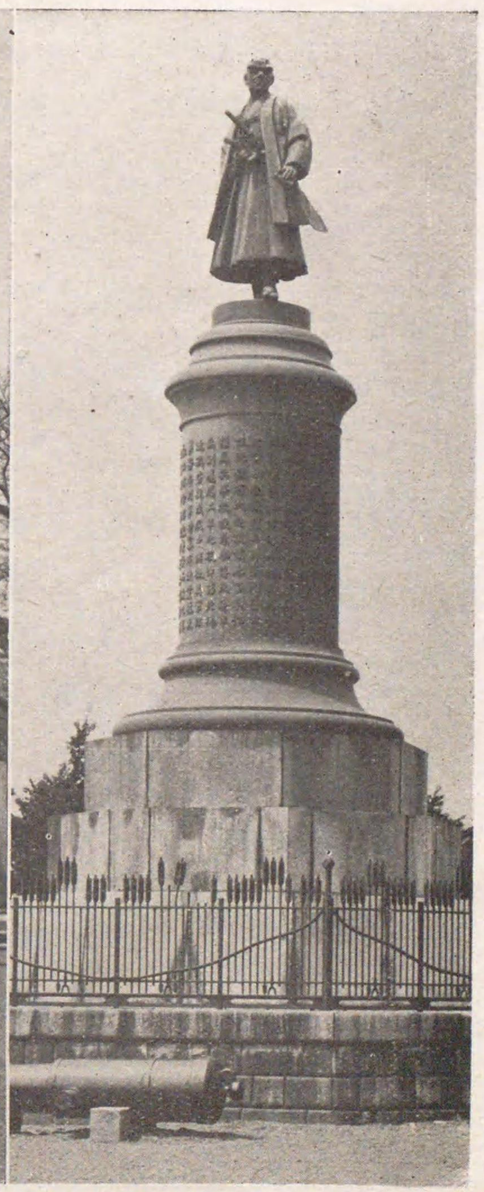


The newly repaired Slope of Kudan and the great torii of the Pantheon.

九段坂といへば、靖國神社で有名なるは勿論であるが、復興前はその坂が急で長いことに於ても有名であつた。ところが復興局長官に現東京市長の堀切善次郎氏が就任すると、一大英斷を以て坂を削つてしまつた。その新しい姿が御覽の通りである。寫眞は坂下から大鳥居を望んだ光景。

護國の英靈を祀る靖國神社





The Pantheon at Kudan. *right:* The statue of the late Omura, the founder of our Army.

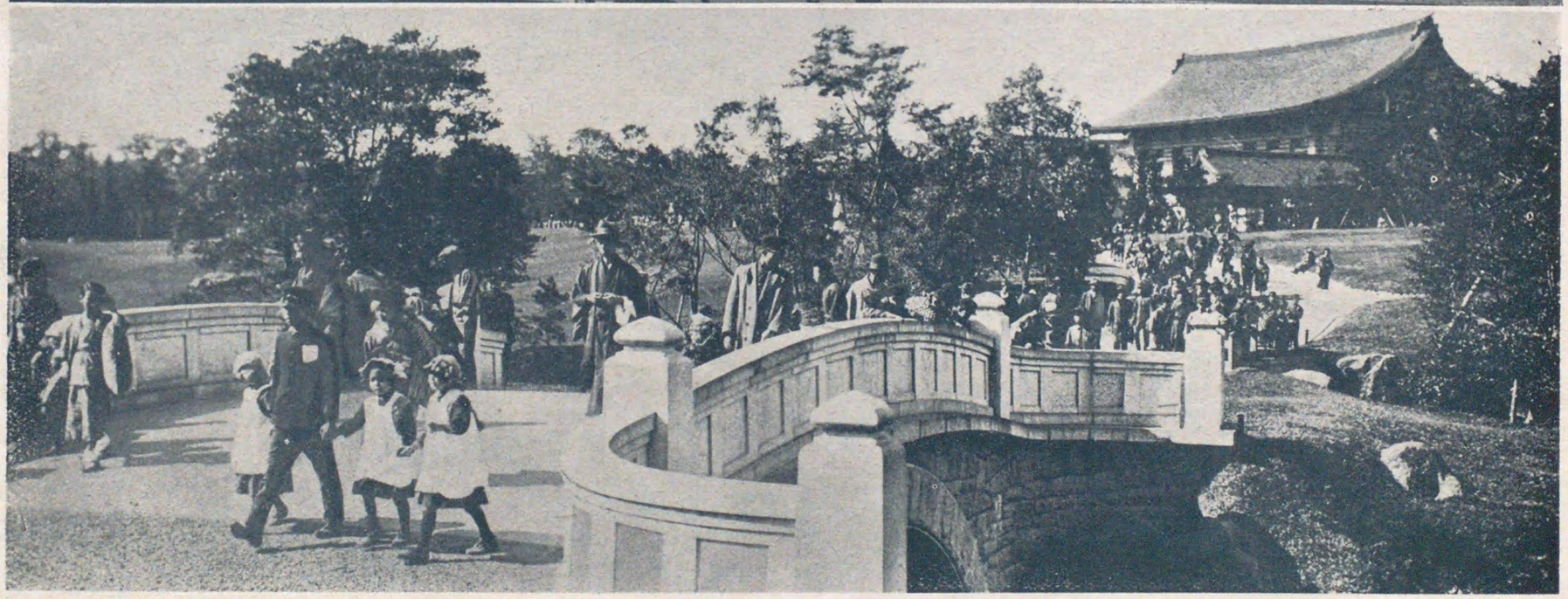
九段の靖國神社、といふだけで說明は要らぬほど有名である。社格は別格官幣社、場所は麹町區富士見町、戊辰の役以後數多の戰役に護國の鬼となつた英靈を合祀するところたるは記すまでもない。**右圖**は靖國神社前の廣場に立つてゐる我國陸軍の開設者大村益二郎の銅像。

代々木の聖域明治神宮

The south gate of the Meiji Shrine.

蓋世の英主明治大帝の英靈を御祀り申し上げた明治神宮は、府下代々木にあるが、青山六丁目の參宮道路を一直線に進めば第一の鳥居を拜することができる。聖域廣大、社殿嚴にして何人といへども大帝の御鴻德に感涙の滂沱たるを禁じ得ない。寫眞は明治神宮南神門。

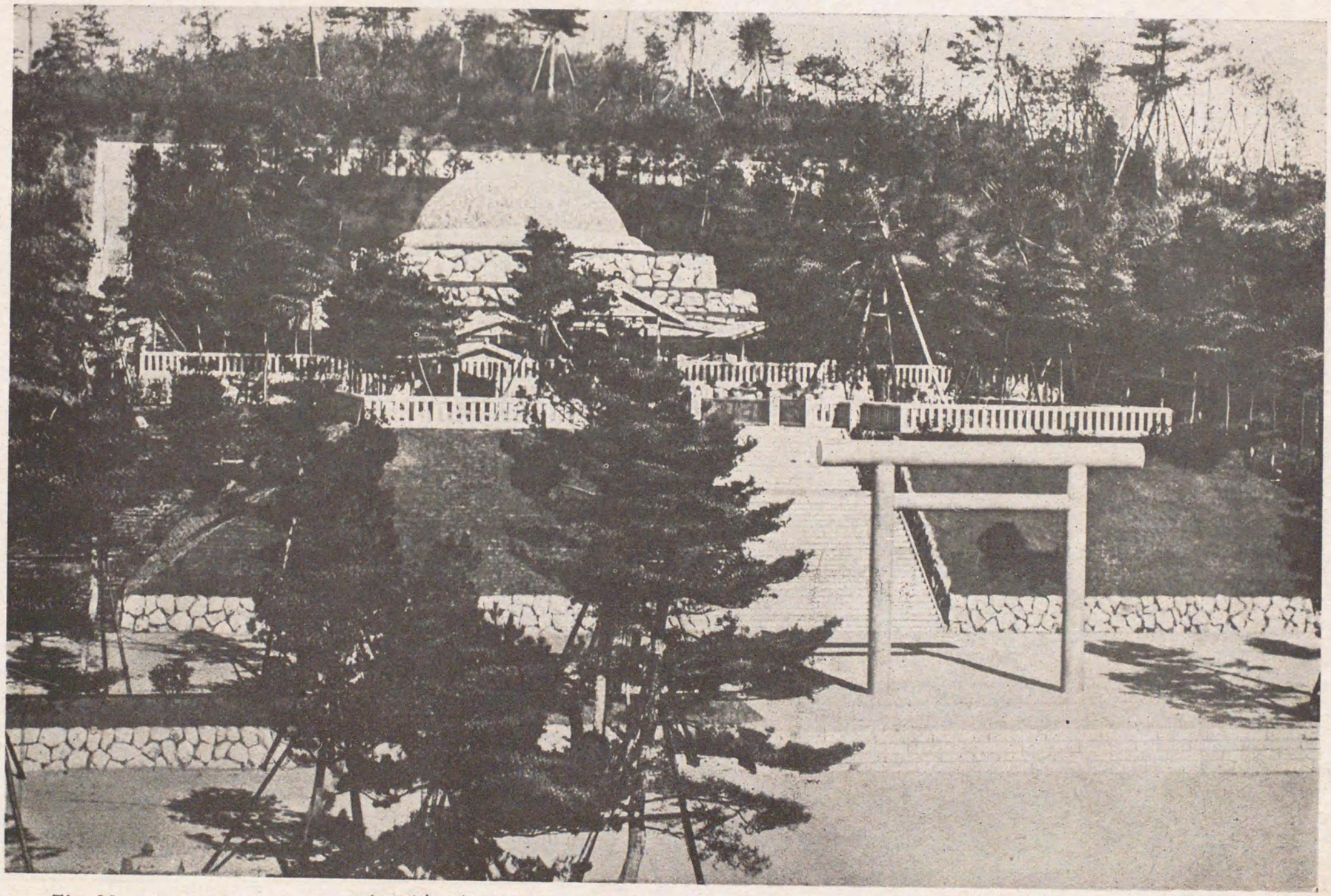
明治神宮繪畫館と寶物殿



The Picture Hall (*upper*) and the Treasure Hall (*under*) of the Meiji Shrine.

上圖、明治神宮聖德記念繪畫館。神宮外苑にある明治大帝御一代の御事蹟を永遠に記念し奉らん爲に當代畫壇の巨匠が揮毫せる壁畫七十餘面を掲げたる大建築であるが、壁畫は未だ全部完成してゐない。**下圖、明治神宮寶物殿**。神宮本殿の後苑にあり、大帝の御存世時に御使用遊ばされたる御品を陳列してある。

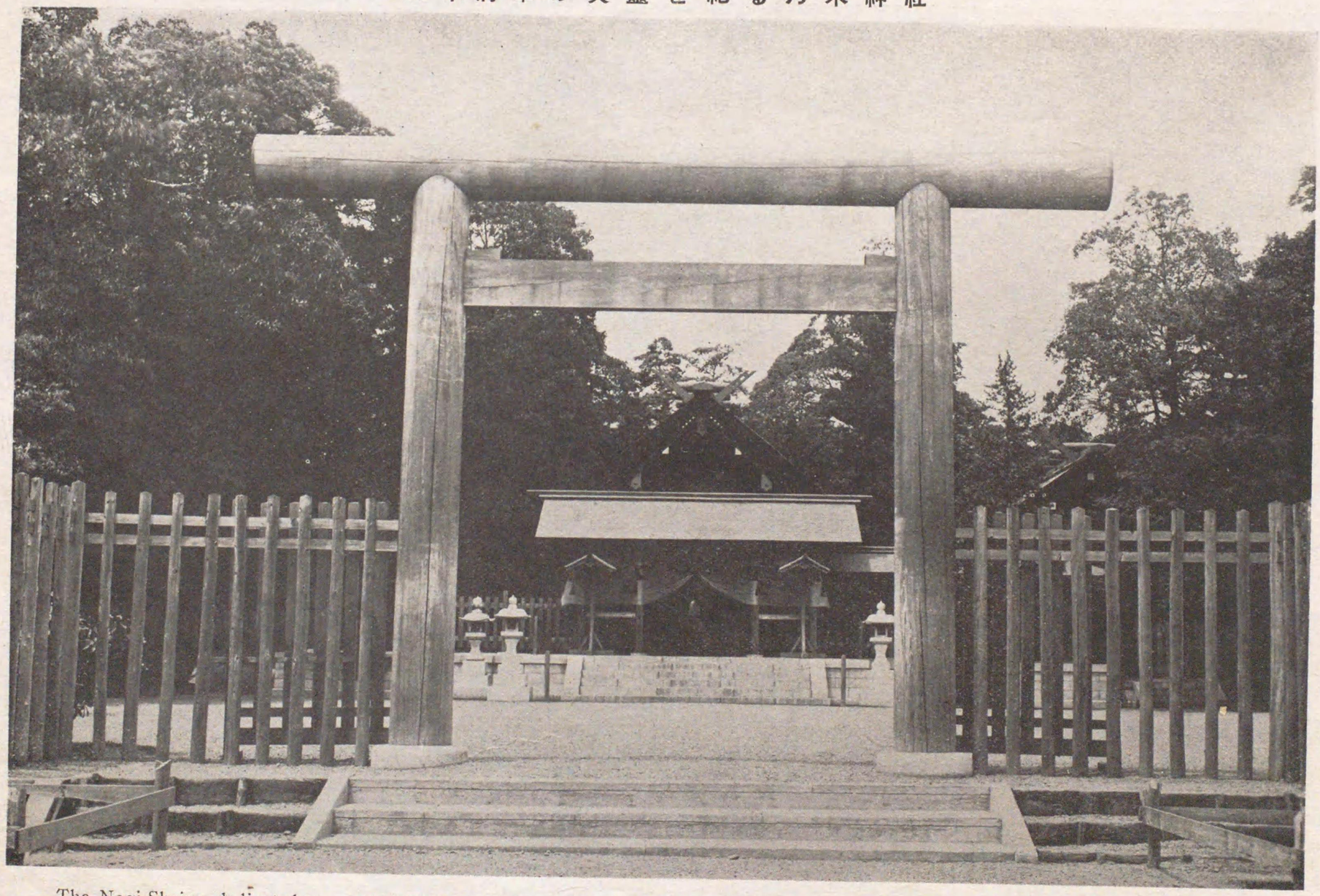
大正天皇の英靈鎭ります多摩御陵



The Mausoleum of the Emperor Taishō at Tama.

大正天皇の御陵は東京府下多摩郡にある。新宿から中央線の汽車で約三十分、淺川驛に下車して八町程、靜な村道を歩けば多摩御陵である。神々しい靜寂な武藏野の一丘陵にある大正天皇の英靈鎭まりましますす御陵、明治神宮に次いで一度は參拜すべき所である。

乃木將軍の英靈を祀る乃木神社



The Nogi Shrine, dedicated to the spirit of General Nogi.

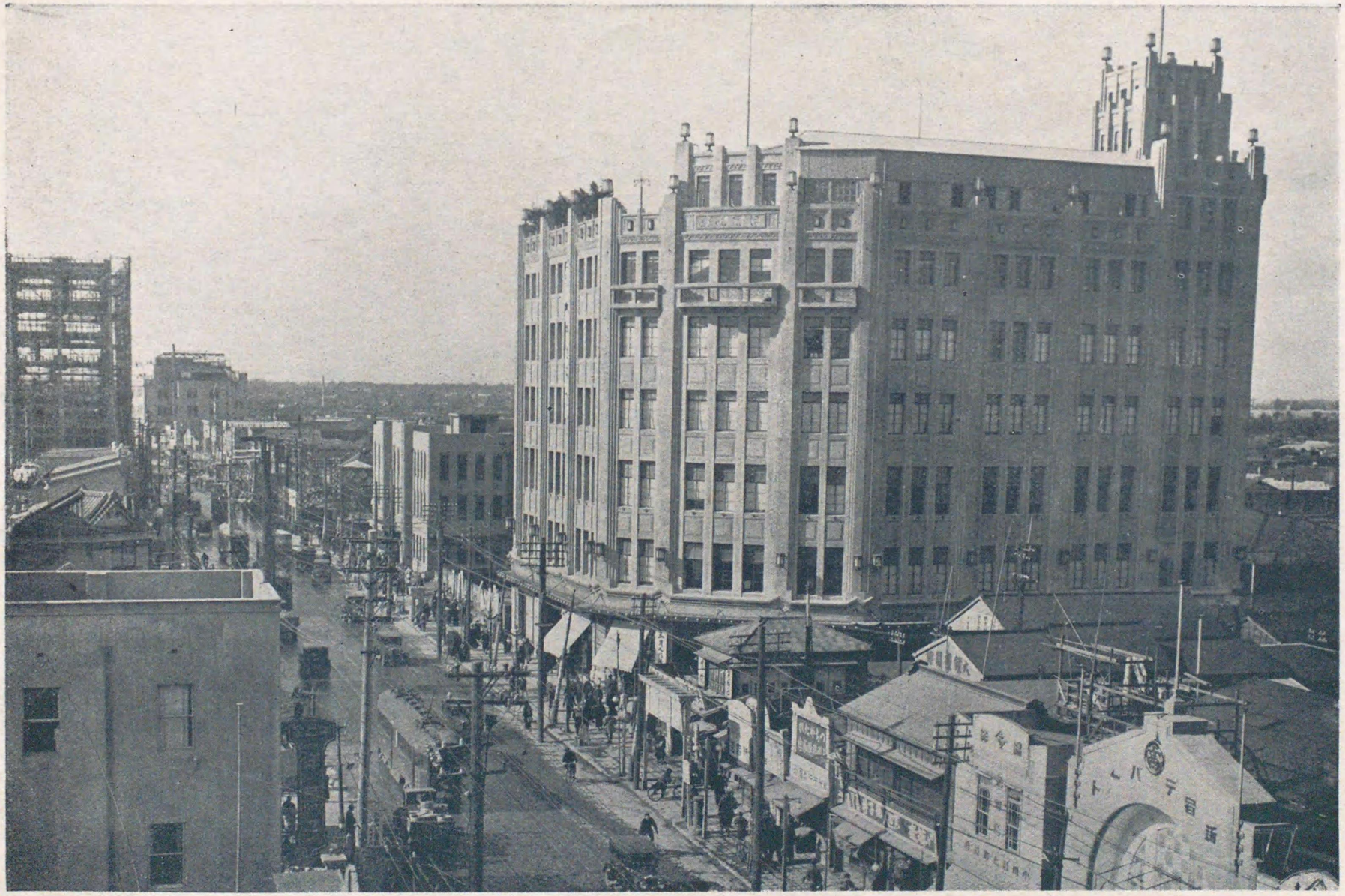
赤坂新坂町なる乃木大將邸に隣りして乃木神社がある、社殿森嚴、大將邸を訪れて感動した人々は、更にこゝで大きな感激に打たれる。

武勳永遠に輝く乃木大將邸

The late General Nogi's mansion.

赤坂區新坂町にある乃木大將邸、こゝで明治四十五年明治大帝御大葬の夜乃木希典大將は殉死したのである、邸宅はそのまゝ保存されて萬代に日本道徳の鑑となつてゐる。

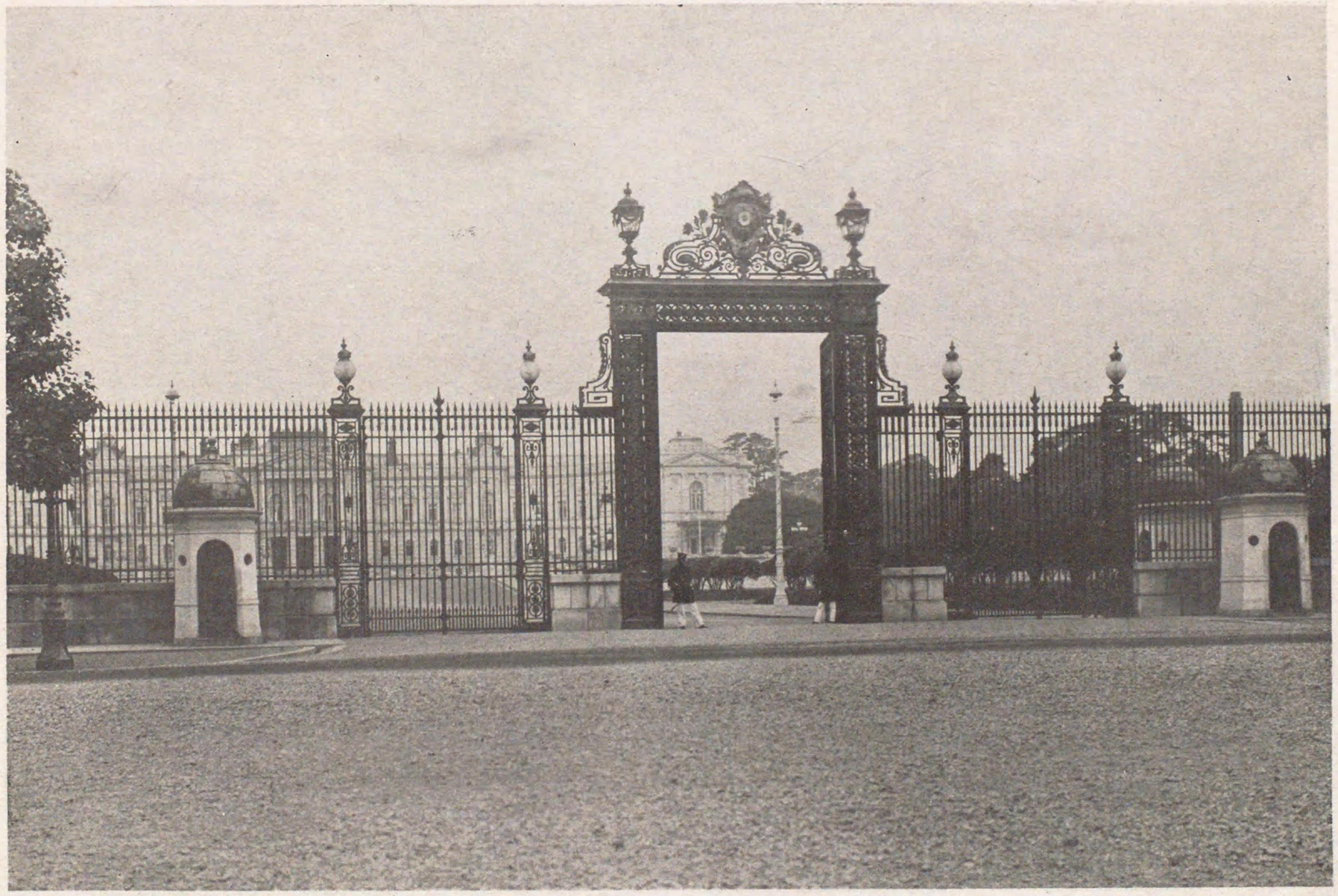
山手銀座の稱がある新宿通り



Shinjuku Street, the Ginza of Yamanote (the hilly district) of Tōkyō.

新宿は山の手の銀座である。その昔は甲州街道の入口で、内藤某と云ふ殿様が新宿と云ふ名稱を付けて内藤新宿と呼ばれてゐた。それが現在ではどうだ。東洋一と稱せられる活動寫眞武蔵野館をはじめ、三越、布袋屋等の一流デパート、新歌舞伎座、カフエー、戀の安息所……と云はれてゐる新宿ホテル等々……何處も同じ 1930 年の空氣が横溢してゐる。新宿驛は省線電車、中央線汽車、小田原急行電車等の發着所、乘降の多い事では東京一の稱がある。

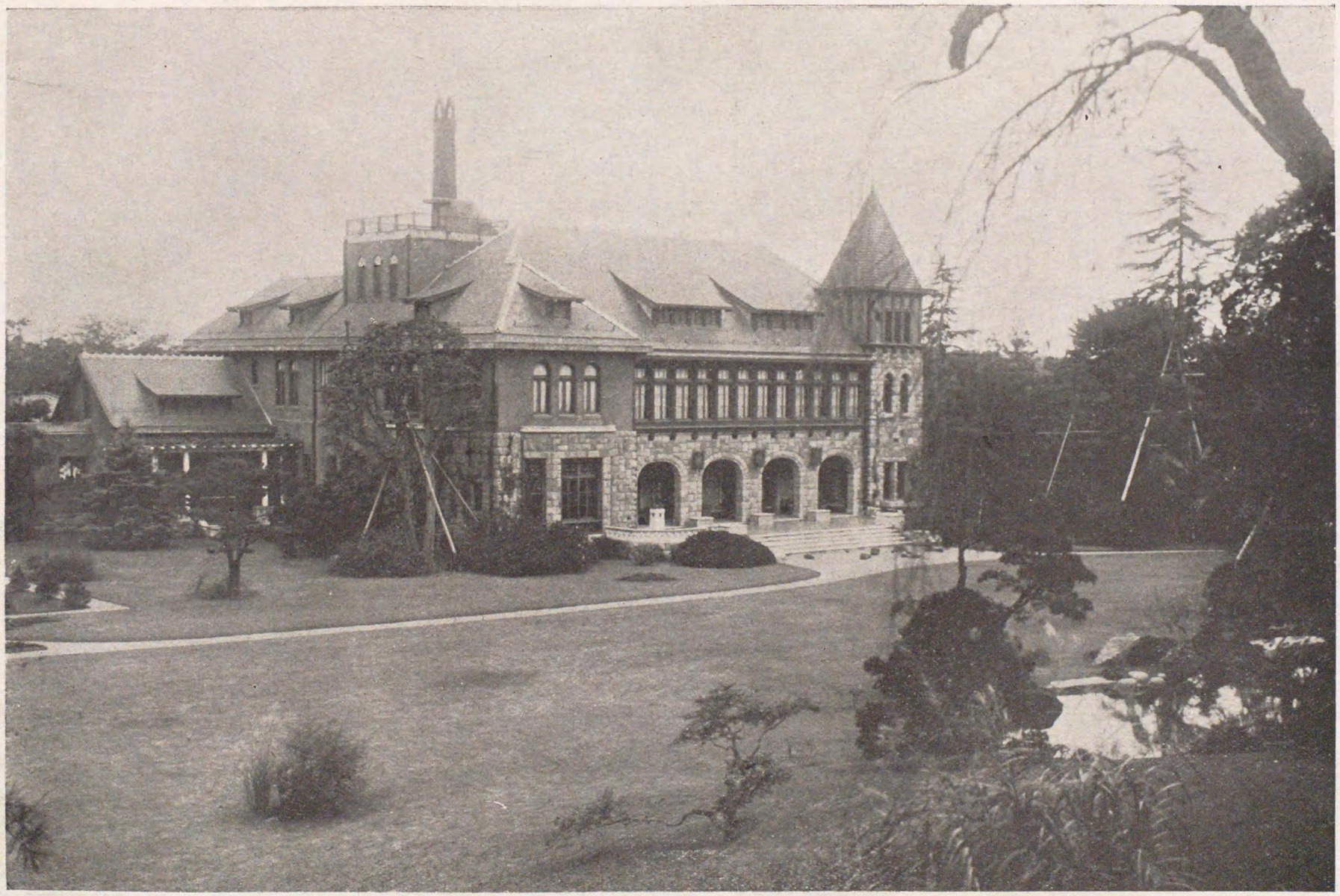
赤　坂　離　宮



The Akasaka Detached Palace.

四谷見附に面せる廣大な地域を占めて、そこに純洋風の善美を凝した建物が赤坂離宮である。もとは紀州侯の邸址で、明治六年皇居炎上の時假皇居を御造營になり、その後現在の御建築となり東宮御所に當てられる御豫定のところ、暫く御見合せになつてゐたが、畏くも聖上陛下が東宮に在した御當時は、御所として御使用遊ばされた。

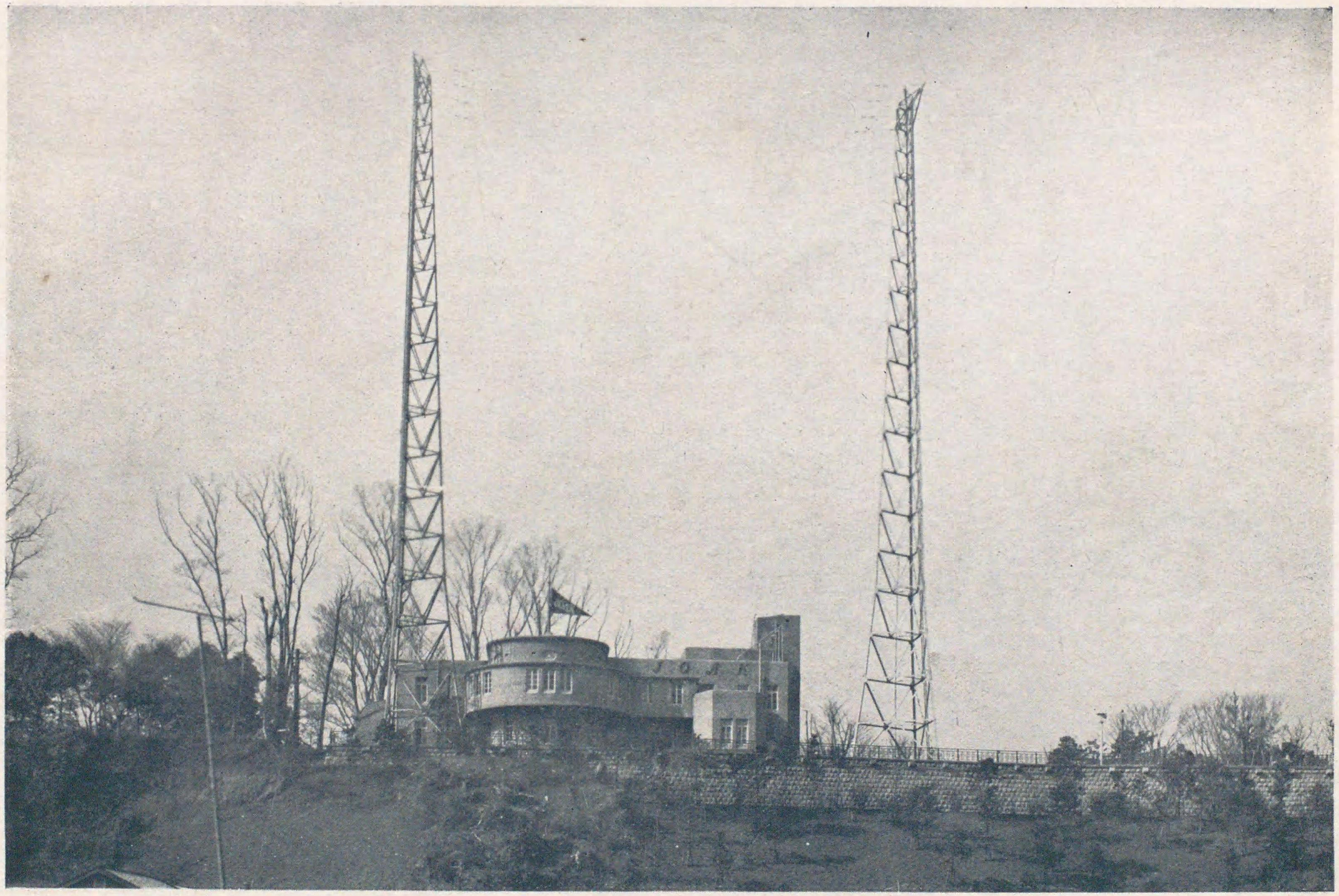
赤坂表町の秩父宮御殿



The palace of Prince Chichibu at Omote-chō in Akasaka.

赤坂表町の秩父宮御殿である。「我等の宮様」として常に御慕ひ申上げて居る秩父宮殿下にこそ相應しい瀟洒たるしかも堅實質素な御殿である。殿下には常に此御殿で御勉學遊ばされこの庭園で御運動遊ばされる、そして模範的な近代家庭生活を妃殿下と共に營んで居られる。御玄關の前にある銅像は朝倉文夫氏の製作にかゝる殿下の御登山姿の銅像である。

JOAKこれは愛宕山の放送局であります



JOAK, the Tōkyō Broadcasting Station on Atago Hill.

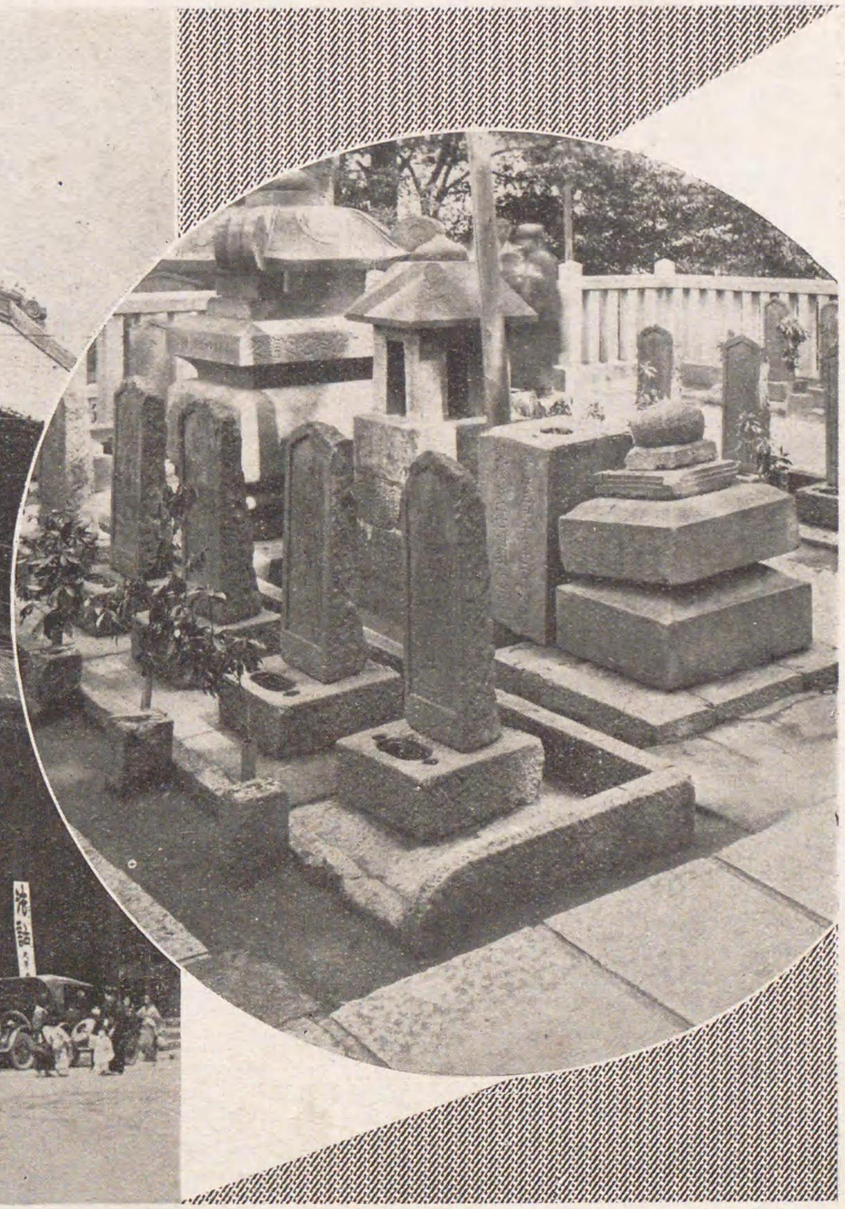
「JOAK……こちらは東京放送局であります。只今から……」アナウンサーの聲も近頃でこそ餘り珍しがらないが、今若しこのラヂオ放送がなくなつたら我々はどんなに淋しく思ふだらう。時事ニュース、時報、氣象通報、講演、演藝放送は云ふに及ばず、經濟市況、職業紹介までこのラヂオによつて報道される。東京の一の名物であると共に、今では必需品の一つになつてしまつた。(寫眞は芝愛宕山の放送局全景である)

放送室に於ける放送の實況

The broadcasting scenes: *right*, Stars of Shōchiku; *left*, Geisha-girls of Shimbashi.

（右圖）は松竹蒲田撮影所のスター連がマイクロフォーンの前で映畫劇を放送してゐる所、中央が栗島すみ子、その左が東榮子、左端が奈良眞養。（左圖）新橋の藝妓連の放送。斯うした姿こそみえね、マイクロフォーンを通じて美し女優さんや姐さん達の聲が地方の諸君へもひゞくのである。

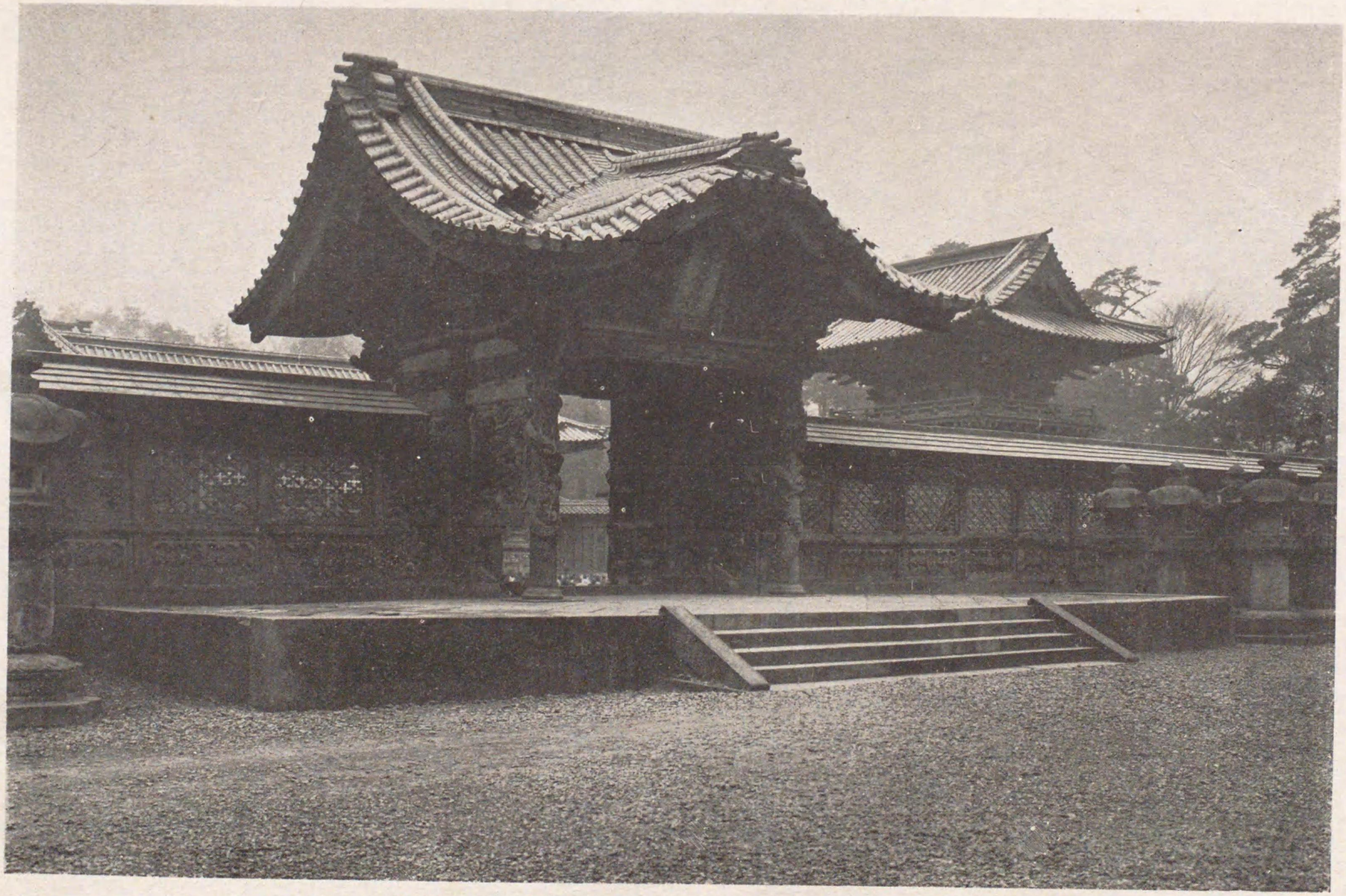
增上寺の樓門と泉岳寺四十七士の墓所



left: The two-storied gate of the Zōjōji Temple. *right:* The tombs of the Loyal Retainers of Akō at the Sengakuji Temple.

（左圖）芝增上寺樓門の偉觀。增上寺は關東淨土宗の總本山、信心の爲の參詣も良いが、東京見物の人はどうしても見落してはならぬ昔からの東京名所。次に揭げた御靈屋は素より裏手の芝公園も靜かないゝ所だ。（右圖）大石內藏助をはじめ赤穗の浪士四十七士の墓。「右は高輪泉岳寺四十七士の墓どころ……」古い歲道唱歌に歌はれた通り、今でも香煙の絕えた事がない。寶物庫があつて義士の遺物や肖像を展覽させてゐる。

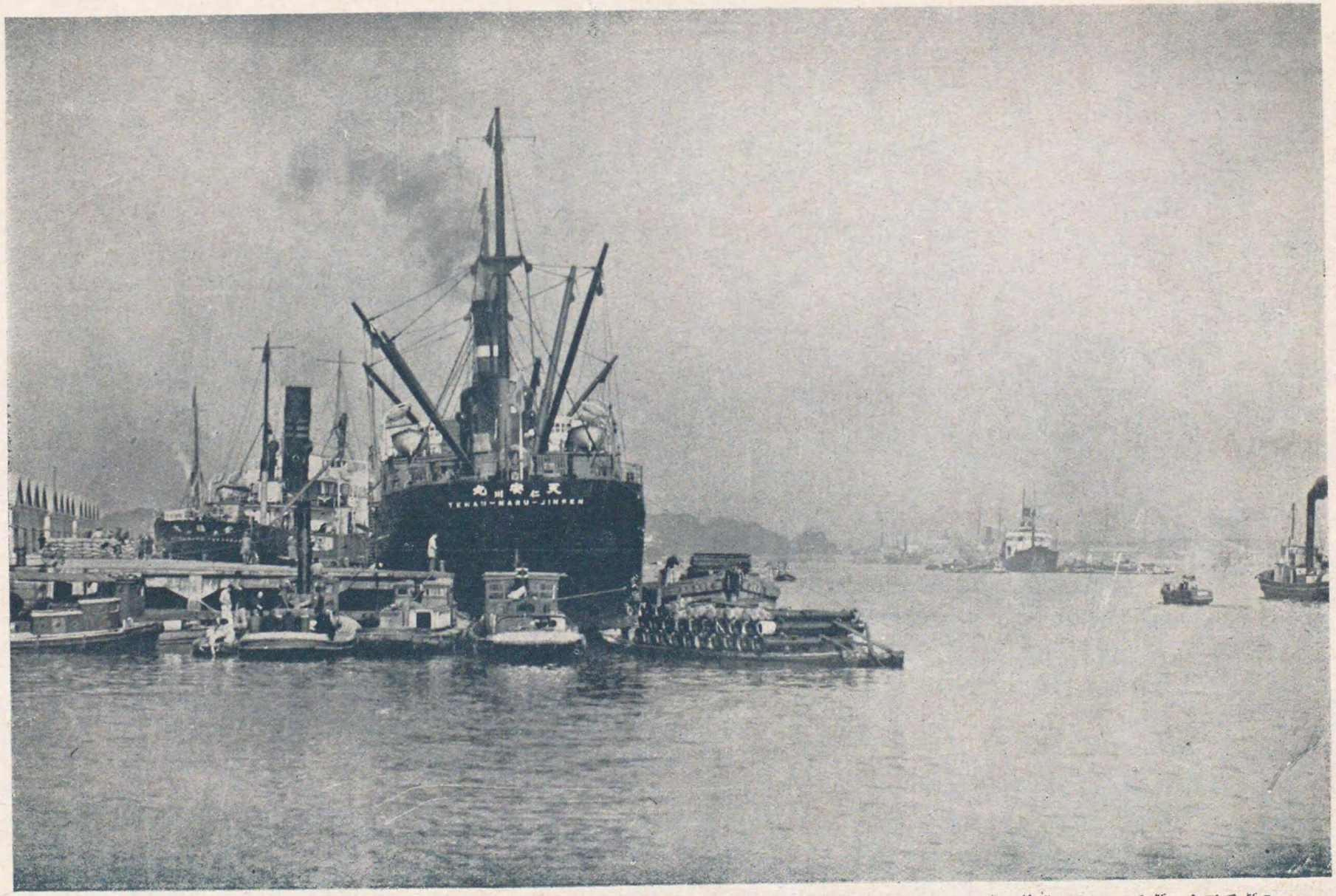
江戸藝術の精華を殘す芝增上寺の靈廟



The mausoleum of Shōgun Iyetsugu at the Zōjōji Temple.

ジヤズのテンポに自動車のスピード、そして立體的なビルディングの聯立、これが近代の東京だ。そして江戸文化の粹を誇るものは日々に數を減じつゝある。そして往時の工藝美術の精をこらした建築は芝增上寺と上野寛永寺にのこる、德川歷代將軍の靈廟のみになつた。しかも各御靈屋の內部に示された彫刻、繪畫、彩色等の裝飾美は德川時代に於ける藝術の精華を遺憾なく表してゐる。今度新たに國寶に指定された。(寫眞は七代將軍家繼の靈廟)

巨船が横着けになる芝浦港



A part of the Port of Shibaura.

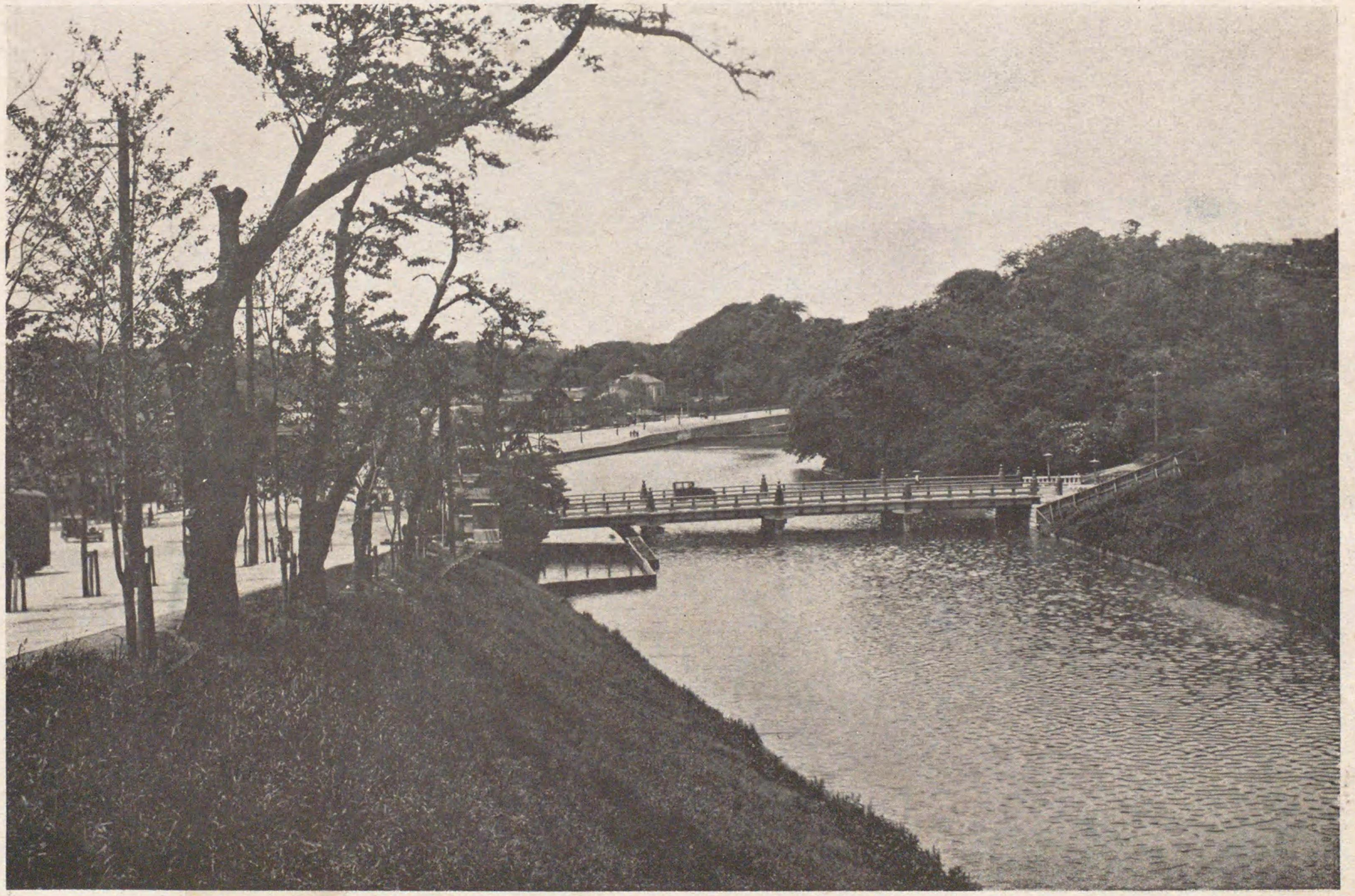
港は横濱に任せて置くのでは大東京の面目にかゝはると計畫されたのが芝浦の築港である。千噸から三千噸の船が六隻も横着けになるといふのだから素晴しいではないか。寫眞はその芝浦港の一部である。

競技の檜舞臺・神宮競技場

The Jingū Stadium: *left*, The track champions; *right*, The Marathon-race champions started off

毎年明治神宮祭に因んで十一月に開かれる神宮競技は、日本全國からありとあらゆるスポーツの選手等が集つて互に日頃から練りに練つたスポーツ精神と健全な身體を見せる運動の檜舞臺、昨年の競技には聖上陛下も天覽あらせられた。(右圖)はマラソン選手が競技場を出發する所。(左圖)はトラックを一周する中距離競走の選手達。

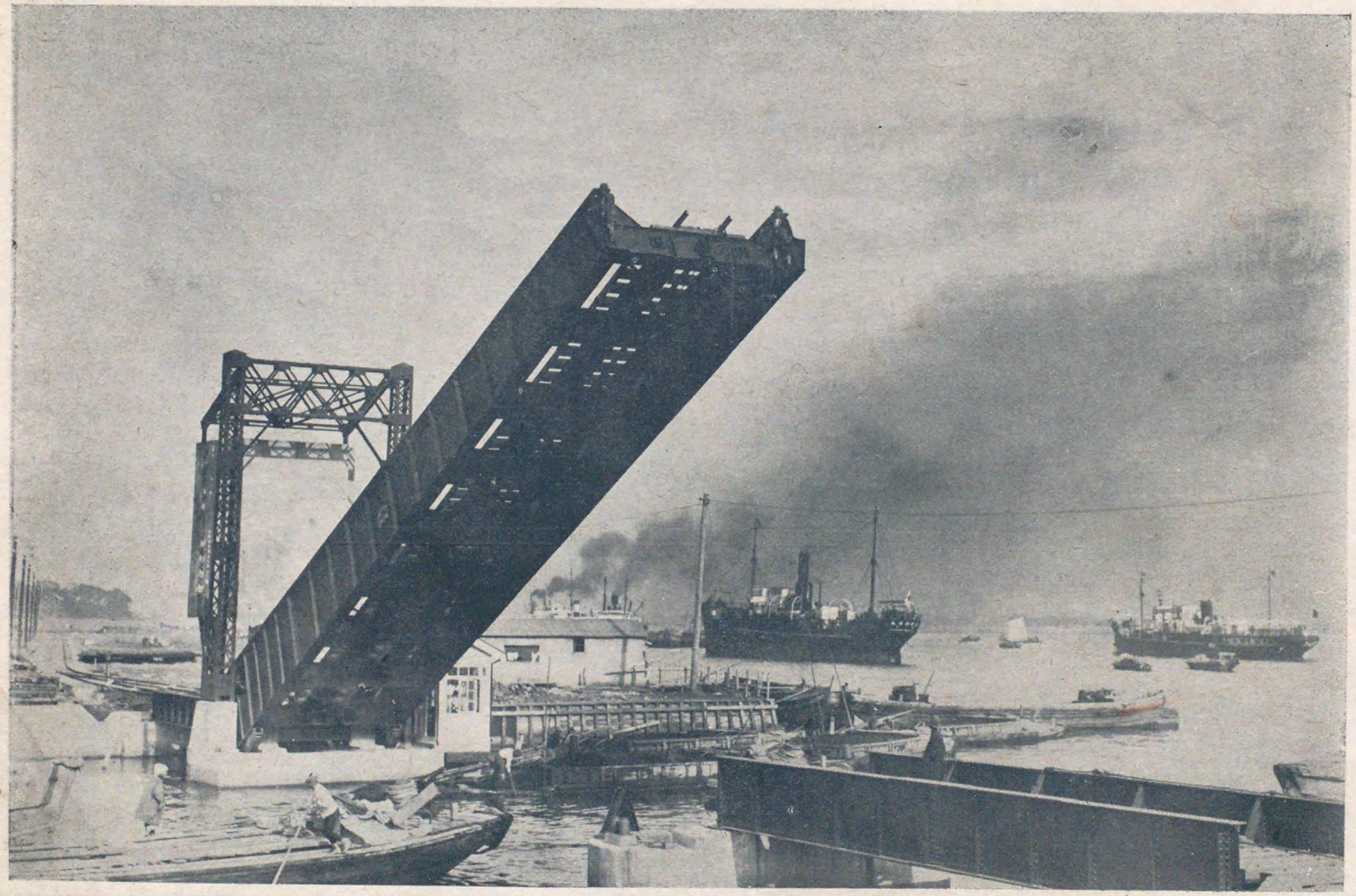
昔ながら木橋に凝寶珠輝く赤坂の辨慶橋



Benkei bridge in the old Japanesque at the Akasaka gate.

有名な浮世繪師二代目廣重が描いた錦繪の内に「赤坂の桐畑」と云ふのがある。桐畑と云ふのは、今外濠線の電車が通つてゐる紀國坂の附近で、赤坂離宮所は昔御三家の一たる紀州家の屋敷があつた。その頃茜山と呼ばれた所だけに今の見付附近も中々江戸情緒のあつた所だ。それが今の見付はコンクリートのペーヴメントがあたり一面にひろがつてゴー・ストップの交通もはげしい。只その中で辨慶橋丈が昔ながら木橋で懐古趣味者を喜ばせてゐる。これは最近架け替へになつたものだが、特にこの辨慶橋は木造を許されたものである。

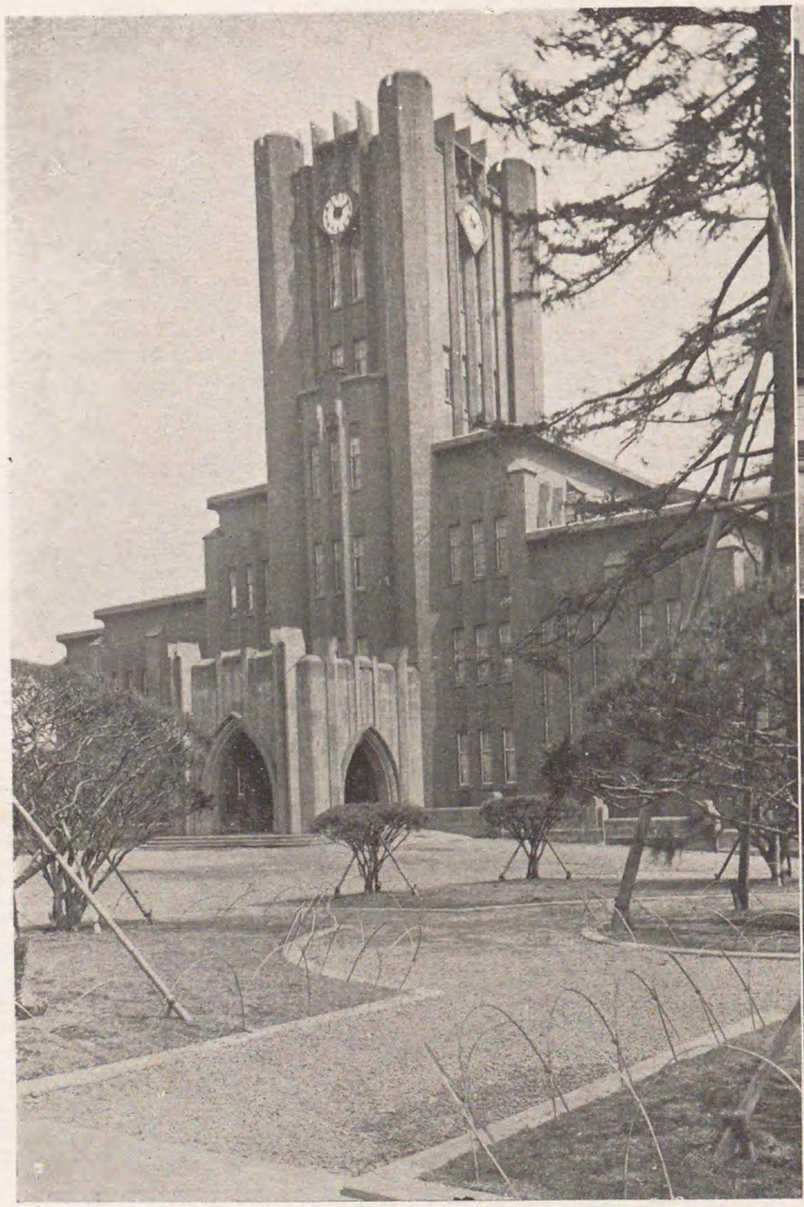
東京港の一部芝浦

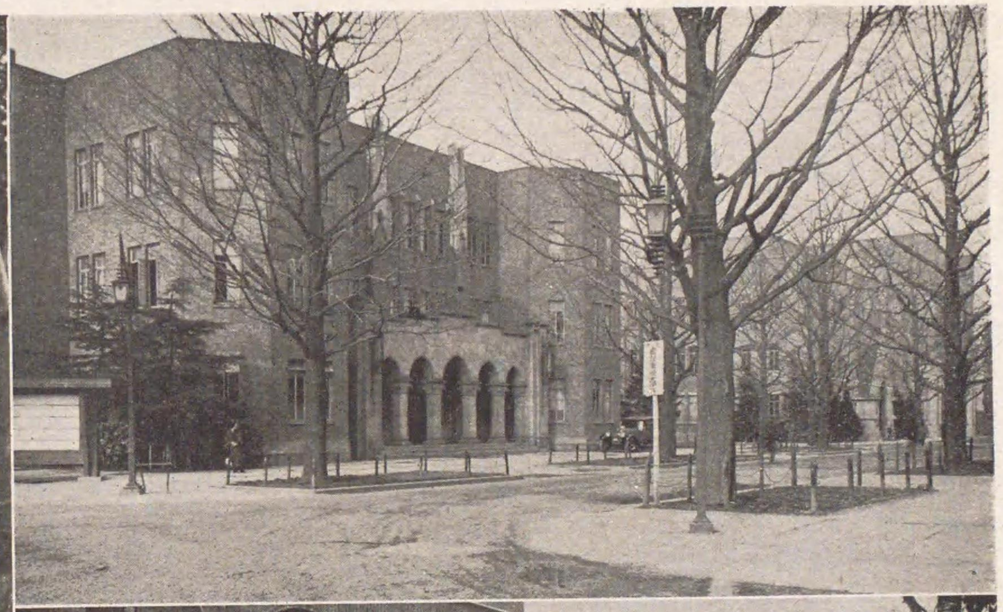


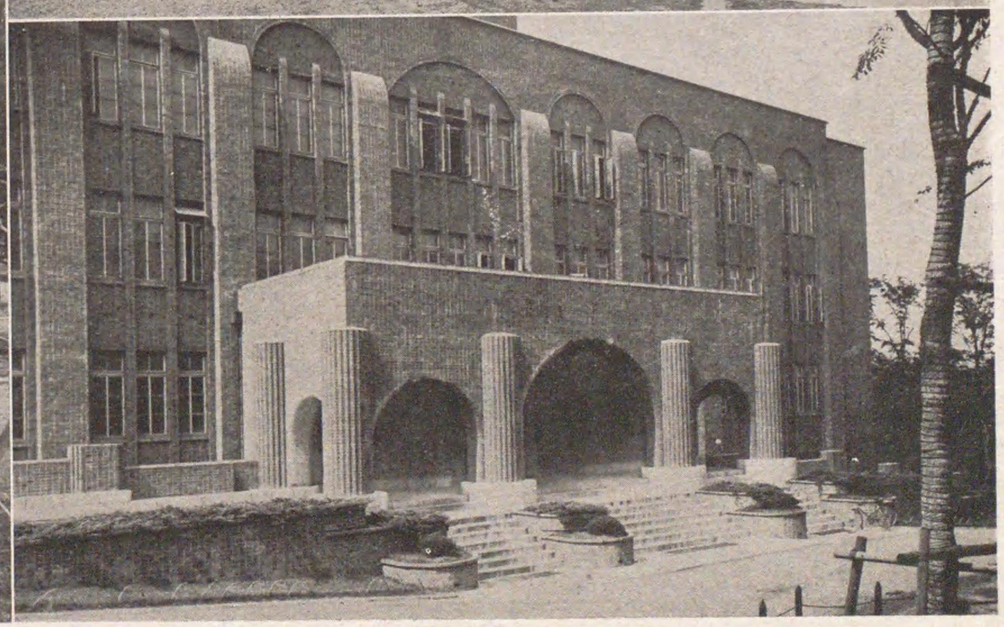
Shibaura bascule bridge.

東京灣の築港計畫も殆ど完成せんとしつゝある芝浦は、昔の面影更になく工場の煙突と大船巨船の汽笛の音が空にとゞろいてゐる。寫眞は芝浦の跳橋で、常は列車が通過するが、下を船舶が航行しようとする時は橋が寫眞の様にはね上がる仕掛である。

我が國の最高學府・帝國大學







The Tōkyō Imperial University: *left*, The lecture hall; *right*, The engineering college and the medical college.

帝大は我國の最高學府である。こゝを卒業すれば學士樣中の學士樣だ、まして恩賜の銀時計でも頂戴すればたいしたもの、洋行、歸朝、博士！ところが、この世智辛い世の中は中々それを許さない。入學試驗のむづかしいのはもとより、さて卒業した所で、就職難のこの恐ろしい風は最高學府でも委細かまはず吹きまはす、卒業間際の學生さんが本郷の通りを蒼い顏で步いてゐるのをみると、いとゞ學士樣の哀れをまして來る。(こゝに揭げた寫眞は本郷の帝大各教室、右上が工學科教室の建物、右下は醫科、左は安田善次郎氏の寄附によつて出來た安田講堂)。

早稻田大學と大隈會館

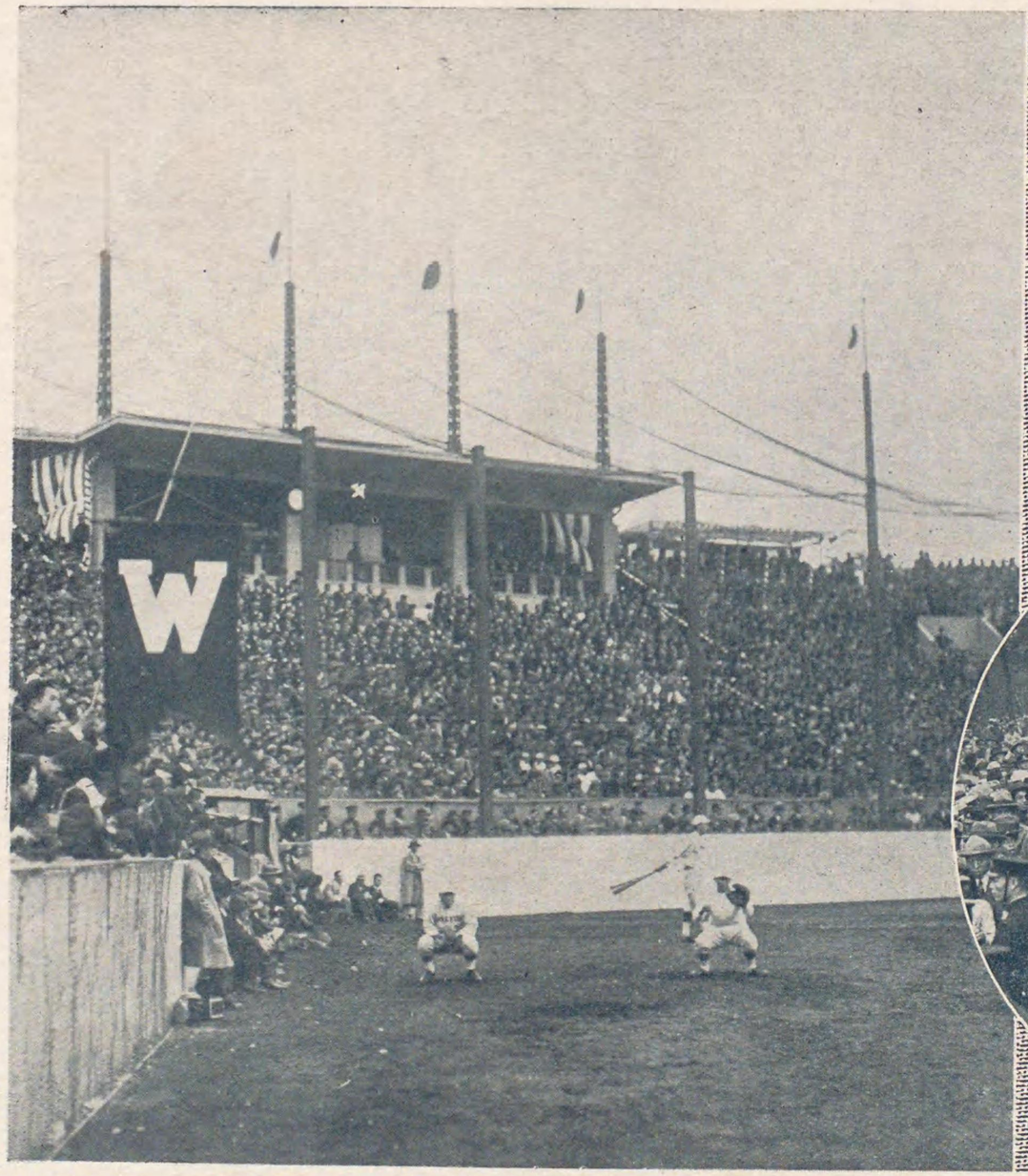
Waseda University and the Okuma Hall.

同じ大學でも帝大の方は「最高學府」と稱される丈あつて何處かイカツイ感じがするが、そこへゆくと早稻田の方は實に快然たるものだ。「早稻田よいとこ、目白を受けて、颯風戀風……」とかなんとか、目白臺の女子大學と相呼應して、ヨーカン色の紋付や黒サージの洋服が氣持よく鶴巻町神樂坂通りを濶歩する。早稻田は、殊に鶴巻町通りは學生街らしい感じが深い。誰でも此處へ來ると快活な學生らしい明るい氣持になれる。（上は正門からみた早稻田大學、下は舊大隈侯邸内に在る大隈會館）

この寫眞帖を見られた人々は、東京が革命的な外觀的變化をしたことに感嘆されるであらう。それはまつたく東京

路にはプラタナスの並木が街を綠化してゐる。そしてその街の左右に立ち並ぶ建物は、

戰慶早す沸を血のンアフ球野



Waseda and Keiō baseball match befor the Emperor at the Jingū Ground.

昔は回向院の大角力が江戸っ子の血を湧したものだつたが、今ではそれがメツキリ衰へて、夫に代つて流行り出したのが野球である。殊に春秋に開かれる六大學リーグ戰、その内でも慶應軍の"三田"はリーグ戰中の白眉として毎度ファンを熱狂させる。(左圖)は昭和四年の秋神宮野球技場で柔くも天覽の榮に浴した早慶野球戰の實況。(右上)ファンの應援の光景。(右下)巡査の警戒裡に先を爭ふて入場券を買ふファン、前の晩から徹夜して入口につめかけてゐると云ふのだから、その人氣推して知るべしである。

新東京見物

この寫眞帖を見られた人々は、東京が革命的な外觀的變化をしたことに感嘆されるであらう。それはまつたく東京生れの、東京ッ兒でさへが驚く有樣であるから、古い寫眞帖で東京を見てゐた地方の人々は更により大きな驚きを感ぜられると思ふ。

新東京を概觀すると、道路の總坪數が震災前までは二百八十萬坪であつたものが、今では全道路坪數が全市總面積の二割五分を占めることとなり、ロンドンの二割三分を凌駕して、世界一を誇るパリの二割五分と比肩するのだから、これだけでも世界一か二とまで偉くなつたわけだ。

品川から千住まで蜿蜒として貫く道路。十三キロ半、街路にはプラタナスの並木が街を綠化してゐる。そしてその街の左右に立ち並ぶ建物は、表現派、分離派、ライト式、ロマネスク、正統派、曰く何々派に何々式等々々で、その變化に富んだことは、世界建築のデパアトを開いたかの觀がある。

一部の都市美研究家は、「東京はまだ〳〵汚い」といふが裏から裏を見ればそれは完全ではないかも知れないが、道路、建築、公園等を見れば、何といつても革命的に美化したものである。どうぞ、東京人が彼の震災から燒野ケ原と化した、その焦土の上に涙ぐましい努力努力の結晶として打ち建てた新東京の姿を見てやつて下さい。

新しい東京の姿

それはまつたく驚くべき變り樣である。大正十二年の震災は、痛恨限りない事變であつた。しかし、あの震災が無かつたなら、東京は今日の近代的都市美を持ち得ないであらう。そしていつまでも汚い、整頓されない江戸時代からの東京であつたに違ひにい。

さて、立派に復興したモダン東京を一廻り、御案內することにしよう。

東京驛で汽車を降りたら、何よりも宮城を拜し、大內山の壯嚴な風景に感激するのが第一、それから日比谷公園に入る。こゝは明治三十六年六月一日の開園で、面積は五萬五坪で東京市中の公園としては上野、芝の兩公園に次での廣い公園である。上野、芝が江戸時代からの歷史的な風致を存してゐるに反して、日比谷はどこまでも近代的で、明るい氣分をもつてゐる。

日比谷公園を出たら霞ケ關のお役所街を見物する。この界隈はまつたく

政治の街

である。海軍省には、素晴しく高い無線塔が聳へ、西鄕從道、河村純義、仁禮景範三將軍の銅像が立つてゐる、海軍省の前が外務省、陸奥宗光伯の銅像が頑張つてゐる。外務省のお隣りが赤旗飜へる勞農ロシアの大使館。こゝの坂を登つて行くと麴町は永田町、濱口首相が決然と、だが澁い顏をして鎭座するモダン官邸がある。その御近所には二百三十尺の高塔が四邊を壓して新議事堂が偉容を示してゐる。これらに大に感嘆をして、扨て霞ケ關の通りを元へ戻る、陸軍省、內相官邸などはまあ大した事はらいが裁判所は一寸內部をのぞくも面白いであらう。

赤煉瓦の三層樓、階下が東京地方裁判所と檢事局、二階は控訴院、三階は大審院で、國家最高の司直の府、これは東京にたつた一つの存在だから、見物をすべきだ。

霞ケ關から櫻田門、例の井伊掃部頭直弼が水戸の烈士に暗殺されたところ。これから日比谷公園の方に戻つて東京市の公會堂を見る。これは安田善次郎翁が刺殺される一寸前に、三百萬圓を寄附して出來あがつたもので、三千人を入れる大會場は東京の誇りである。

日比谷公園の正門の前に帝國ホテル、ホテルの隣が舊華族會館である。ホテルは米國の建築技師ライト氏の設計で、大谷石を使つた東洋的な形が非常に面白い。一晩泊りには七圓から風呂附で十圓から、食事は定食晝二圓、晩二圓五十錢を拂へば、大に外國式な氣分にひたることができよう。

ホテルから日比谷交叉點

宮城の御壕の水は清く、石垣に老松の風情も何となく高々しい。御壕に面して帝國劇場と東京會館、帝劇は最近松竹の手に移つたが、それまでは芝居道の紳士として、一種特別の立場にあつたが、とう〳〵松竹の勢力下に降服したのは寂しい氣がする。お隣りの東京會館、これは東京に於ける最大の宴會場、帝國ホテルと相對して高級なお客を待つてゐる。

帝劇、東京會館を過ぎれば、もうこゝは丸の內のビルデイング街、丸ビル、海上ビル、郵船ビルを初めとして、どこもかしこもヒルデイングである。こゝは昔は草茫々たる三菱ケ原であつたのが、東京驛が出來上ると共にめきめきと發展して東京驛が十萬人の人員を呑吐すれば丸ビル一軒だけで四千五百人が生活してゐるといふのだから素晴しいではないか。

東京驛から、何處へ行く、一圓を奮發してタクシーもよいし、三越は赤色、白木屋は白色の自働車が、無料で各々の店まで運んでくれるがこゝから直ぐに三越、白木へ行くよりも、銀座通りへ出た方が順がよからう。歩いても大したことはなく天下の銀座街、

銀座は正に首都の心臓である

試みに夜尾張町の角に立つて街上の風景を見るがよい。電車のスパーク、自働車の警笛、オートバイの爆音、ショーウインドーのきらめき、廣告塔の明滅、交通整理のゴー・ストップの青と赤、人間の波、波、波、男、男、女、女の波である。新しいのも古いのも、お好み次第。新橋から京橋までの兩側は悉く一流の商店、カフエー、買ひ度いものは遠慮なく買ふべく、飲みたい酒は遠慮なく飲むべしである。カフエーはタイガー、ライオン、クロネコなどゝ動物園見た樣だが、中にはきれいな女給さんが、吾人の至るを待つてゐるといふ次第、裏通りにはサイセリヤ、アホヒ、モンマルトル、メーゾンヤエ、など超モダンの酒場がある。

カフエーがモダン過ぎて困るとなれば、天金の天ぷら、竹葉のうなぎ、上海亭の支那料理、更科のそばなど味覺を樂ませることであらう。

も恐しいところだが、しかし、我國財界のバロメーターとあつて見れば、大に尊敬せにやなら

帝劇、東京會館を過ぎれば、もうこゝは丸の内のビルデイング街、丸ビル、海上ビル、郵

イセリヤ、アホヒ、モンマルトル、メーゾンヤ

エ、など超モダンの酒場がある。

カフエーがモダン過ぎて困るとなれば、天金の天ぷら、竹葉のうなぎ、上海亭の支那料理、更科のそばなど味覺を樂ませることであらう。お土産を買ふならば、デパートメントに松屋、松坂屋があり、服部、天賞堂等もある。

銀座の通りをブラ〳〵と歩いてゐるうちに、いつの間にか京橋を渡り、日本橋通りへ出る。日本橋通り一丁目には、呉服店として江戸時代からその名を謳はれた白木屋が、近代的流行の百貨店として橋向ふの三越と相對してゐる。

東京の中心、日本橋

ではあるが、今日では東京の中心は銀座、丸の内通りへ移動して、日本橋はいさゝか近代的な感覺を失つた感がある。しかし、何といつても金持の街である。東京第一の裕福なところである。日本橋を渡れば三越、我が最大の百貨店だ。こゝ一軒だけでもゆつくりと見物したらゆうに一日はかゝる。だから、ぐる〳〵と大股で廻つて、七階の食堂で一休みして、屋上で東京全市を俯瞰して、ついでにお隣りの三井銀行を眺めて、天下の財豪を羨望するのもよろしからう。

三越の裏には日本銀行、正金銀行がある。ついでに前だけでも見物するがよからう。だがお金持の人はよろしく金貨一枚を兩替することだ何とよい東京土産となるではないか。

兜町には有名な東京株式取引所、人間の慾を最高度に具體化したところ、一夜にして成金ともなれば、一瞬にして身代を棒に觸る、世にも恐しいところだが、しかし、我國財界のバロメーターとあつて見れば、大に尊敬せにやならぬところでもある。最近の資本金は四千七百萬圓、取引高が債券額五億二千五百九十一萬餘圓、株式數六千八百二十六萬餘株である。

兜町では株の賣買〳〵、間近な蠣殻町では米穀の賣買と、欲の塊りとしての人間を語つてゐる。米穀取引所の資本金は六百五十萬圓である。

投機の巷を見てから

人形町に出る。こゝには有名な水天宮が鎭座する。人形町といへば東京の下町情調が頗る濃かににじみ出てゐるところであつたが、復興後の人形町は、もうすべてがモダン、モダン、モダンである。

こゝから直ぐ近くに明治座を中心とした明治座通り、これに並行した公園通りの突き當りが濱町公園で、水に臨んだ自然の風致を生かしたもの、こゝに吐け口を向けて金座通りなるものが出來た。モダンガールとモダンボーイが銀座を横行すれば、金座には濱町、葭町、柳橋の仇者が横行しようといふ、趣味的に、思想的にも大分隔りをもつた新しい盛り場である。

濱町河岸へ出れば、否でも往でも橋が眼に入るだらう。「東京の復興は橋から」といはれた位に隅田川に架る橋は壯美である。相生橋、永代橋、清洲橋、藏前橋、駒形橋、言問橋の六大橋の爲には橋梁費金額約三千四百萬圓中の殆ど三分の一を投じたといふ。この他に在來の新大橋

兩國橋、吾妻橋の三橋を加へると十大橋となるわけである。

新しい七大橋

勿論耐震、耐火の大鐵骨梁で作られた。そして隅田川の川幅は上流が約三百メートルだから、橋の長さはそれ〴〵に順應してゐる。駒形橋と藏前橋の個所は地盤が良好であつたから工事が比較的容易であつたが、永代橋と清洲橋の個所の地盤が最も惡かつたので、我國には鴨綠江でやつた外に例のない壓搾空氣潛函工法といふのを採用した。

橋の形態は、言問橋は河岸公園たる新隅田公園の風致に合はされて水平な一文字、永代と清洲とは空高く昇つてゐるが、空中にアーチを太く描かせ、後者はやさしく空から網を垂れ下げたかのように作られてゐる。

隅田川に浮く都鳥に大に東京情調を味つて兩國を渡れば國技館の大鐵傘が聳へてゐる、こゝは春夏の大角力はいはずもがな、秋には菊が呼物で國技館としては新しい營業科目がふへたといふものである。國技館から電車二停留場にして思ひ出も悲しい被服廠前である。こゝは震災前までは陸軍被服廠のあつたところ。二萬坪の廣場であつた。あの九月一日の震火災に二萬坪の廣場が逃げ場として不適當であつたとは誰が想像し得たであらう。實に二萬六千餘人の震災犧牲者の恨みは永い場所である。巍然として聳へる震災記念堂も思へば悲しい姿であるが、

人々の手向ける香華にさぞや佛は浮んでゐることであらう。震災堂の參詣を濟せてこゝから電車へ乘つて吾妻橋で降ると、日本第一の歡樂境淺草である。

淺草に來て第一番にお賽錢をあげて御利益を願ふのは觀音堂である。御本尊は一寸八分だが十八間四方の本堂に納つて日本一の御賽錢收入があるといふから豪勢なものである。

觀音堂から左に曲れば淺草の歡樂境が眼前に展開する。

クララボウと、アンナメイウオンと、傳明と傳次郎と、入江たか子の映畫俳優の人氣が相交錯して常設館無慮二十五六、世界の盛り場として恥しくない繁昌である。こゝへ集る客は、モダンボーイ、モダンガールの手輩は餘り見られずハンチングの學生、前垂の小僧さん、店員、職人、下町商人の娘さんといつたところが半數以上を占めてゐる。

映畫館と劇場に就て淺草を代表するものは飮食店である。そして、こゝの特色とするのは、「安くて早くてうまいこと」である。

草津、一直は一流の料亭、やゝ下つて大衆的な大增、牛の松喜、鰻の奴、天ぷらの中清などして思ひ出も悲しい被服廠前である。こゝは震災前までは陸軍被服廠のあつたところ。二萬坪の廣場であつた。あの九月一日の震火災に二萬坪の廣場が逃げ場として不適當であつたとは誰が想像し得たであらう。實に二萬六千餘人の震災犧牲者の恨みは永い場所である。巍然として聳へる震災記念堂も思へば悲しい姿であるが、

二階は今はその姿を失つたが、その代りに御待合なるものが、粹な姿を現して爪彈きの音もしめつぽく、かと思へば、活動小屋や雜閙の渦巻

上野へ來たら先づ石段を上り

災犠牲者の恨みは永い場所である。巍然として聳へる震災記念堂も思へば悲しい姿であるが、食物の巻の裏から裏へと魔性の女の存在を忘れてはならない。淫名天下に謳はれた往年の十二階は今はその姿を失つたが、その代りに御待合なるものが、粋な姿を現して爪彈きの音もしめつぽく、かと思へば、活動小屋や雜閙の渦巻の中に出沒するは高等淫賣、一ケ月六回人妻となるとて「月六妻」などゝいふすごいのもある。歌劇女優の成れの果て、安來節のシンガーなども交つてゐるといふ。

朝から晩まで歡樂、歡樂の淺草のお隣には吉原の遊廓、今は昔の面影なしとはいへ、三千の遊女が毎夜その何倍かの異性を向ふに廻してゐるのだから大したものである。

淺草の雷門から、一寸吾妻橋を渡つて

隅田川の堤を言問へ歩く

こゝが昔から向島、墨堤十里、十里は大袈裟だが、兎に角文人墨客の雅懷を喜はせ、春は櫻に都民の歡樂をこゝに集めたもの、長命寺の櫻餅、三圍神社、言問のだんご、あれもこれも、堤と橋がコンクリートで固められ、江戸趣味がモダン趣味の都市美とやらになれば、もう江戸の昔の面影さらに無し、都鳥のやさしい姿も、モーターボートの爆音に魂を消して、ゆつたりした情景は見られない、だが、モダン化した水の公園としての隅田堤、見るだけは見るべしである。

こゝから一度雷門へ戻るか、言問橋を渡つたあたり圓タクに乘つて一路上野へと進むべしである。圓タクも飽きたとなれば、雷門から金十錢の例の地下鐵道、二三分で上野公園の山下、上野の電車驛の前にポツカリと出られる。

上野へ來たら先づ石段を上り

西郷さんの銅像の前に立つて見る、復興の東京は實によく展望できるのだ。それに彰義隊の墓清水堂、東照宮、五重塔などは德川將軍家時代の江戸の遺物、趣味も大分懷古的になるが、それでは古い、新しい趣味を求めたいならば、東京府の美術館、帝展、院展、二科、南畫展その他一年中展覽會の開かれざるはないから、こゝで一つ近代的審美眼といふやつを養つて、更に古代の美の世界に遊ぶべく東京帝室博物館があり、美術學校、音樂學校、寬永寺の德川家廟、子供連れならば動物園にも一寸這入つて見る。

それらを一巡して山を下れば、不忍の池、池の中央に辨財天、觀月橋を渡ればそこには博覽會の會場が、いつも何らかの催しをやつてゐる。

見るもの〻次には食ふ物だが、上野は流石に淺草と違つてどことなく風格がある。支那料理の翠松園、日本料理の災福、豆腐料理の忍川などは粹で高級な方、大衆的には米久、世界、だるまなどがある。

廣小路に出れば、四角の一方に巍然たる松坂屋デパート、經營者が名古屋の豪商伊藤治郎左衞門氏だけに、すべてが堅實だといふ評判である。

上野もこれで濟んだ、これから電車へ乘つて本郷三丁目、我が國最高の學府たる帝國大學、安田家寄附の講堂がすばらしい。

本郷から一足飛び九段へ出るもよし、神田の通りから九段へ行くもよからう。

神田は書店と學校

の多いことで、東京市中に異色をはなつてゐる。學校には明治大學、商科大學、中央大學、專修大學、その他私立の中學校、受驗豫備校があり、書店には古書專門、法律專門、何々專門とこの街に來れば手に入らぬ書籍なしとされてゐる。

駿河臺を登ればお茶の水、その昔仙臺藩主伊達侯が一切の費用を出して工事を起した塀割、小赤壁の名によつてその風景は、江戸から東京への名所である。この向ふ側が湯島の聖堂、德川時代の最高學府であつた。こゝに架けられた橋が聖橋、橋脚の美は新東京の橋の中で代表的なものとされてゐる。

神田の街が盡きたところに、九段の坂があり、登れば高燈籠と鳥居が聳へて、護國の英靈を祀る別格官幣社靖國神社、本殿を拜して傍なる遊就館に入り各戰役の戰利品、我國の銘刀、乃木將軍の遺物などを見る。九段の傍には近衛一聯隊の兵舍があり、宮闕守護の干城、ラッパの音もいとど勇しい。

靖國神社の參拜を終つたら、そこから電車に乘つて四谷見附に出る、見附の一方に壯麗なる建築物、一段のこう〳〵しさに首の下るを禁じ得ないのも理なり、これは東宮御所である。東宮御所を拜したら御濠に松の風情も深い紀の國坂を下つて辨慶橋、こゝだけは近代化し洋風化して行く東京の中でたつた一ケ所純日本式の風致をもつてゐるところである。

橋を渡れば清水谷公園、明治の元勳大久保利通侯が暗殺されたといふ喰違はこゝである。辨慶橋の前が赤坂見附、青山行の電車に乘れば、車上から誠に恐懼の極みであるが、皇太后陛下の在す青山東御所、秩父宮殿下の御殿を拜することが出來る。青山の一丁目で降れば間近なるは、

明治神宮の外苑

日本青年會館、憲法記念館、明治大帝聖德記念繪畫館、それに全日本的である野球場、運動場がある。外苑から信濃町の省線驛で電車に乘り、千駄ヶ谷、代々木、代々木の驛からはもう明治神宮が拜される、坦々たる參道を進めばこゝには近代日本の英主明治大帝の御靈を鎭め奉つた明治神宮の御本殿がある。恭しく帽を脫し、國土の安穩を祈つて、參道を眞つ直ぐに青山原宿に出る、こゝから青山六丁目まで一直線の大道路が有名な明治神宮表參道である。

青山六丁目から電車に乘つて新坂町、軍神乃木大將の邸宅と乃木神社がある。明治四十五年明治天皇御大葬の夜、靜子夫人と共に大帝の御跡を追ひ奉つた殉死の館、今に疊の上に血痕の消へぬも將軍を偲ぶ思ひ出の種である。

こゝから

芝へ出て愛宕山を登れば

東京全市が一眸の裡に俯瞰できるわけ、つい近年までは愛宕山は東京市中唯一の高い山として名所であつた。こゝから品川のお臺場も、やがて東京の地續きになつてしまふであらう。この芝浦からやがては

得ないのも理なり。これに東宮御所を拜したら御壕に松の風情も深い紀の國坂を下つて辨慶橋、こゝだけは近代化し洋風化

東京全市が一眸の裡に俯瞰できるわけ、つい近年までは愛宕山は東京市中唯一の高い山として名所であつた。こゝから品川のお臺場を五分十錢の望遠鏡で眺めれば東京見物の氣分は十分であつたが、モダン東京は、この愛宕山をして更に一の名所を增したといふのは、「JOAKこちらは東京中央放送局で」近代科學文明の尖端を行くラヂオの本場である。大正十四年三月、芝浦の假放送局で放送事業を開始してから僅かの間に驚くべき發展を示し、昭和四年の七月末には聽取者三十九萬八千二百五十七人、もう三十萬は突破してゐるであらうから、一ケ月一圓で三十萬圓、これが毎月のことだから放送局は不景氣知らずの黃金卿といふことができよう。

埼玉縣鳩ケ谷の新鄉放送所の十キロ放送が完成してからは、聽取距離は一段と增加して茨城、栃木、群馬、新潟、長野、靜岡の各縣にまできこえ、四十九里の浪を越えて佐渡にまで達することゝなつた。

放送局の內部は一般に公開してゐないが、多少のつてがあれば一巡することも困難ではあるまい。

愛宕の山を下つて間もなく芝公園の增上寺と御靈屋とともに上野のそれとは緣の深いものでこの邊一體の芝公園はものさびた風趣あるところである。丸山に登ればそこには東照宮と五重塔、丸山は古代人の住居の跡で貝塚もある。芝浦の東京港三千噸の巨舶が橫着けになるといふ東京市の大計畫も完成した。明治維新の回顧史料たる品川のお臺場も、やがて東京の地續きになつてしまふであらう。この芝浦からやがては高輪の泉岳寺、赤穗四十七士の義烈を弔ふも東京見物のプログラムの一であらうが、しかし、近代東京とは大分かけ離れて來た。

× × × ×

ぐる〳〵廻りの飛脚見物、これでも悠に三日はかゝる。だが、この見物ぶりでは甚だもの足りないであらう。といふのは新東京の新東京らしいところが見たいものだ。先づ京橋は木挽町の歌舞伎座で一夜を歌舞伎趣味に陶醉したい。それから若い人なら築地小劇場で左翼劇場の芝居もよからう。劇場といへばなまめかしい女と白粉とが跋扈するものと思へば大間違ひで、この左翼劇場として最も勞働者的な、眞劍な劇場である。

美しい婦人が人形ぶりで商品の宣傳をする卽ちマネキン孃、これはどこのデパートメントでも見ることができるが、ダンスホールを見物するのは一寸勇氣を要するかも知れない。京橋の千代田ビル內にある東京舞踊研究所、人形町のユニオンダンス・ホール、赤坂溜池のフロリダ、その他にあつて入場料が五十錢、ダンス代は晝が一回十錢、夜がジャズ入りで二十錢である。

まづ銀座あたりのカフエーで一杯やつて、銀座を散步して、ダンスホールで踊らないまでもジャズに浮かれ心を抱けば、モダンなところであらう。

新東京を順序よく見物するには、どんなコースをとればよいか、試みに東京遊覽自動車のコースを記せば左の通りで二日がゝりである。

◆東京驛發、三越から兩國橋、國技館を見て兩國驛から、被服廠跡の震災記念堂を賽し吾妻橋を渡つて淺草公園を廻り下谷稻荷町通りを上野驛前に、西鄕銅像、上野見晴臺、美術館、博物館、動物園、不忍池、松坂屋前を經て黑門町から須田町へ出て、日本橋白木屋、日本橋通り京橋銀座通りへ、松屋、歌舞伎座から、築地小劇場、新橋驛より、議事堂の新舊建物を見て日比谷に出て、宮城二重橋、楠公銅像、丸ビルより東京驛に至つて第一回が終る。

◆第二日は、新宿驛から四谷通りへ出て、赤坂離宮、青山御所、明治神宮外苑から神宮を參拜し、乃木神社、高輪御所、泉岳寺を經て芝公園に出て、增上寺に參詣し、御成門より放送局を見學し、日比谷公園より帝國ホテル、帝劇、朝日新聞、日日新聞、丸の內より東京驛に至り、宮城內廣場を脫けて九段坂、靖國神社を參詣し、牛藏門へ出て參謀本部前の坂を登り議事堂本建築を見物して、赤坂見附辨慶橋より新宿驛に至る。

◆東京遊覽自動車は一日御一名三圓五十錢、勿論乘合で、說明者がついてゐるから便利なわけであるが、時間と、費用に餘裕のある人は勝手な行動をとつた方が面白いこと限りなしである。

◆東京市の交通機關は、極く有り來りではあるが市電氣局經營の電車である。全線片道金七錢乘換は自在だし、全市にわたつて蜘蛛の巢のように通じてゐるから、これをうまく利用すれば經濟的でもあるし、上つ面でない東京の物情も見られるわけである。たゞし、一人で乘るのは迷ひ兒になる恐れ充分だが、交通圖をよく見て研究的に乘り廻そうといふ道樂氣のある人ならば結局はこの方がよいであらう。

◆早くて、乘り心地のよい乘りものに乘合自動車がある。東京市電氣局經營の圓太郎と、東京自動車會社の青バスとの二種で、共に可愛らしい女車掌さんが親切に扱つてくれる。料金は一區七錢だから電車の全線七錢に比すれば平均して三四倍の交通費になるであらうが、電車の遲々たるに較べれば早いことにかけては、お値段の高きも我慢せずばなるまい。

◆贅澤を極めこむ人は圓タクに乘るべしである自動車賃も震災後は驚くほど暴露した。一臺四五千圓、いや、それ以上の高級車に資本家らしく豪然と納つて、品川から上野まで走らせたところが僅かタッタ一圓で濟むのだから、すこし財布の樂な人は圓タクを飛して、東京見物に大にプルらしい氣分を味ふべしである。最近までは怪し氣な奴が不當料金を貪つたが、現在は極く安心ができる。乘る時に「ドコまで行くが一圓だよ」と念を押して乘ればよろしい。降る時に不當な請求をする者があつたら容捨なく巡査の引渡すことである。

〔終〕

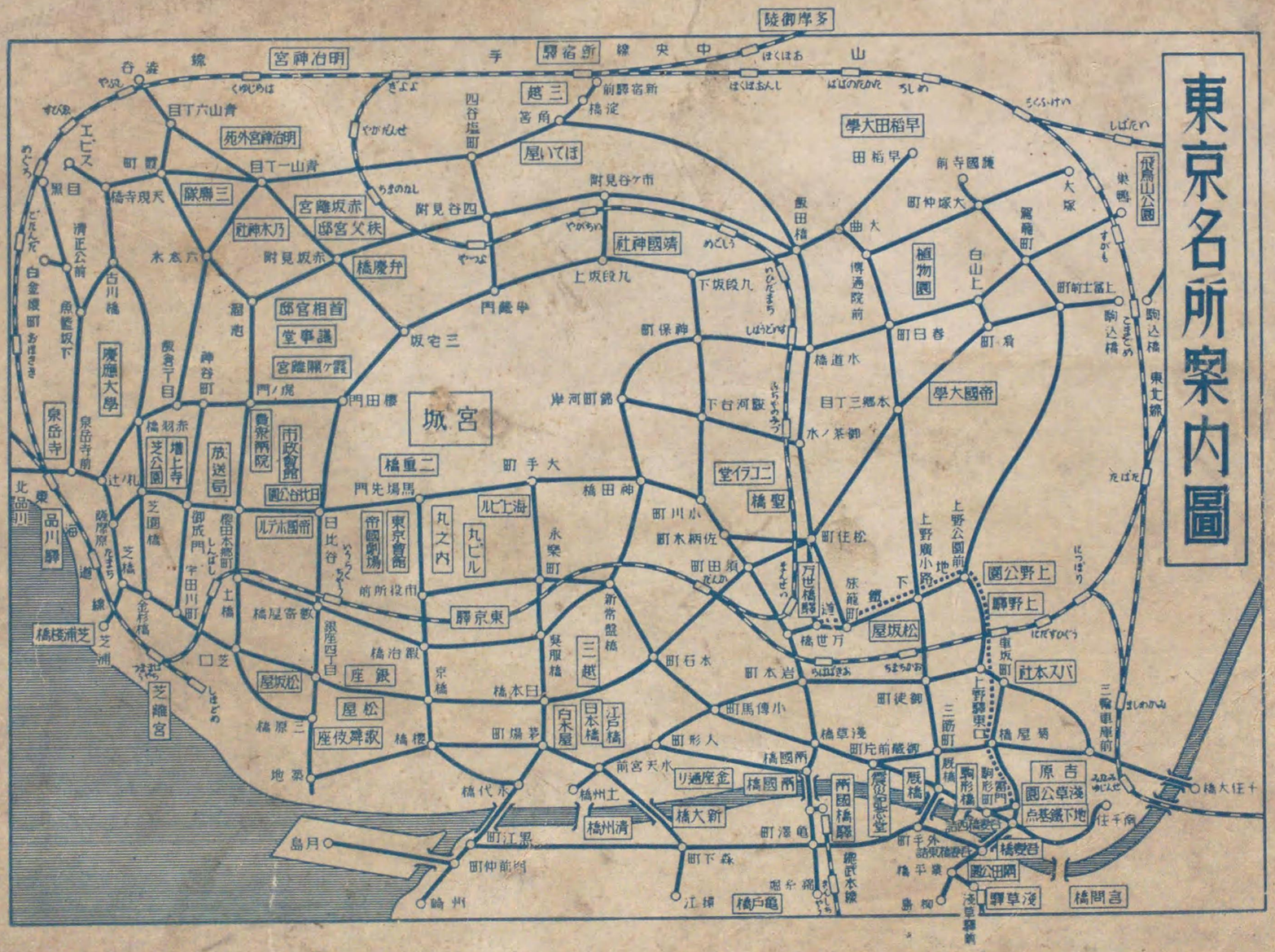
手な行動をとつた方が面白いこと限りなしである。

◆東京市の交通機關は、極く有り來りではある

の引渡すことである。

〔終〕

東京名所案内圖


陵御摩多
線武中線
宮神治明
駅宿新
谷渋
目丁六山青
苑外宮神治明
エビス
目丁一山青
目黒
天現寺橋
三聯隊
清正公前
古川橋
白金猿町
魚籃坂下
慶應大學
泉岳寺
泉岳寺前
芝公園
増上寺
赤羽橋
芝公園橋
放送局
市政會館
公園北
日比谷
帝國ホテル
帝國劇場
東京會館
丸ビル
丸之内
海上ビル
馬場先門
二重橋
大手町
神田橋
永楽町
前所役市
東京駅
新帝盤橋
三越
日本橋
江戸橋
白木屋
京橋
日本橋
銀座四丁目
銀座
松屋
歌舞伎座
屋坂松
芝離宮
芝浦
芝浦機械
品川駅
東海道線
北品川
御成門
宇田川町
土橋
櫓屋敷跡
金杉橋
芝口
地蔵橋
櫻田本郷町
虎ノ門
門田櫻
警察病院
市政會館
霞関
神谷町
三宅坂
門桜半
弁慶橋
赤坂見附
赤坂離宮
邸宮欠秩
社神木乃
附見谷四
附見谷ケ市
四谷塩町
やがんせ
ちぎのなし
屋いてほ
宮角
橋淀前駅宿新
三越
駅宿新
明治神宮
谷渋
多摩御陵
早稲田大學
田稲早
前寺國護
大塚仲町
大塚
巣鴨
飛鳥山公園
駒込橋
東北線
駒込
上野公園前
上野廣小路
上野公園
上野駅
車坂町
松坂屋
バス本社
三越前
三越
三輪車庫前
吉原
浅草公園
地下鉄点
浅草駅
言問橋
十任大橋
千住
千住大橋
帝國大學
植物園
白山上
上富士前町
駒込
東京大學
赤門
本郷三丁目
水ノ茶御
聖堂ニコライ
橋聖
下台河駿
岸河町錦
町保神
橋道水
町日春
町岡春
町駒込
町住松
町木柄佐
町田須
町川小
町石本
町本岩
町馬傳小
町形人
町使御
町片前厳御
町手外
町平葉
町下森
町澤亀
町江黒
町仲前岡
町場茅
町代木
橋州清
橋州土
橋大新
橋國兩
橋草淺
橋原二
橋櫻
橋治鍛
橋田神
橋田先場馬
橋二重
橋羽赤
橋戸亀
橋平葉
橋安駒
橋駒形
橋厩
橋屋菊
橋間言
橋草淺
橋公田岡
駅草淺
駅野上
駅京東
駅世万
駅道東
駅道西
駅安駒
駅形駒
駅戸亀
駅武本線
駅武東線
駅武東
駅武本
駅武東
駅武本
駅武東
駅武本

Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

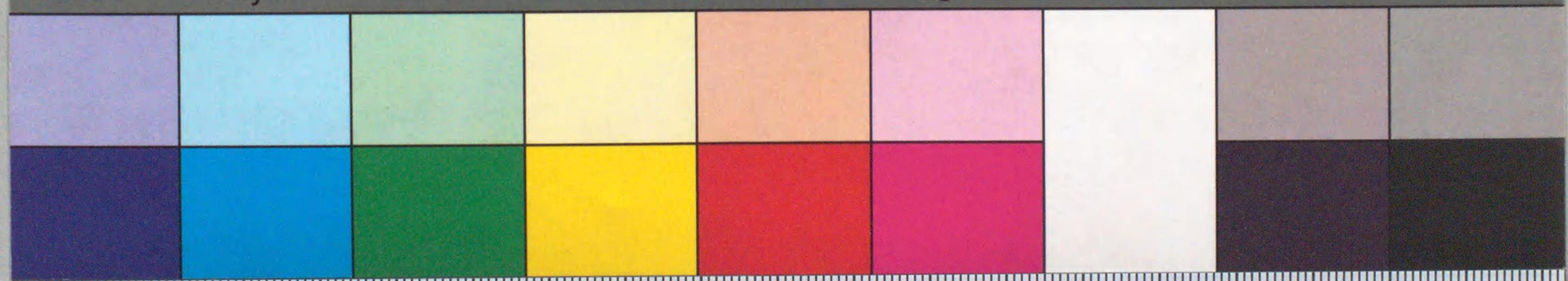
inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



0 1 2 2m 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20

tajima JAPAN